

7

2005年

組合広報

NO. 463

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	広報の充実にご協力を	広報委員長 神谷博行	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	第2回理事会		3
	広報委員会		6
	広報座談会 正副理事長今年度活動方針語る		8
	正副理事長 亜鉛排水規制に関して保坂経産大臣に要望		13
	大村全鍍連会長 運営方針等語る		14
あなたの予定表	8月の環研・協組集荷日程ほか		17
	第8回親睦ゴルフ大会		18
	個人・団体戦の成績、収支実績		20
	訓練校8月授業案内、訃報		23
ピックアップ	研究開発進む環境対応ほか		24
	暑中名刺広告		27
	亜鉛部会総会・全役員留任決める。亜鉛部会会員募集案内		37
	常木鍍金工業(株) 中国・上海にめっき工場建設		39
支部シリーズ	足立支部の巻「おばけ煙突」		40
	石川進造個展「旅のスケッチ万華鏡」		42
つま恋坂	たまごっち	藤田直人(品川支部)	43
支部通信	葛飾支部、中央支部		44
	東京都中小企業の景況		48

広報の充実にご協力を

広報委員長 神谷 博行



私は今期より広報委員長を仰せかつかりました。副委員長として半田常任理事、木下常任理事、各支部からの委員の皆様で合計 16 名の体制で活動して参ります。広報は大変重要な活動ですので、委員会一同精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

広報誌は毎月 1150 部発行され、本文 40 数ページ、広告等を入れ 60 数ページで構成されています。

配布先は、全組合員をはじめ、官公庁、関係団体に情報提供を積極的に行っております。

紙面の内容としては、組合事業の実施状況や組合の対外的活動の状況や会議の記録、組合員事業所に関する情報等を常に提供し、マンネリ化を防ぎ、見やすく、読みやすく、親しみのもてる紙面作りを目指して一層、創意工夫に務めて参ります。

昨年のほう素、ふっ素に関して暫定基準が 3 年間延長されましたが、3 年後には基準値をクリアしなければなりません。そのための新たな処理方法や実績技術情報を速やかに皆様に提供していきたいと考えております。

また、新たに水生生物の保護に伴う亜鉛の規制が厳しく成りそうですので、環境省の動きがあれば即お知らせしたいと考えております。

土壌汚染対策問題については、処理技術も色々出てきていますし、処理料金も当初よりは安くなって来ていると思いますが、仲間が廃業して後始末に困惑する姿を見ていると私達に何が出来、また、めっき組合として何が出来るのかを早めに整理し、手引書の作成も必要と考えます。

めっきセンター「ショーウインド」の活用として、めっき製品の展示を行い、一般の方々に、めっきの良さ、効用を訴え、めっきの需要開拓・拡大を図ります。

広報誌の記事掲載に当たっては、広報委員会で慎重に検討し、各業界への影響等十分に配慮して発行して参ります。

今後も魅力ある組合広報誌をめざして頑張りますので、皆様のご意見、ご要望等ございましたら、各支部の広報委員にお申し出下さい。宜しくよろしくお願い申し上げます。

大村理事長日誌



6月

1日(水)組合事務局、都中央会プレス発表
6日(月)組合事務局、公防協組面接

6日(月)三宅都議と打合せ
7日(火)都中央会
8日(水)表団協代表者会議
全鍍連プレス発表
9日(木)全鍍連から亜鉛規制に関し経産省
へ要望書提出
東京経営者協会 60周年記念
13日(月)柏倉家通夜
15日(水)都中央会・中小企業倶楽部総会
正副理事長会
16日(木)厚生年金基金運用委員会
21日(火)都中央会総務委員会・組織委員会
22日(水)都中央会税務委員会・流通委員会
23日(木)都中央会金融委員会・労働委員会
27日(月)正副理事長会
29日(水)都中央会役員評議員合同会議
職業能力開発協会都庁挨拶回り

～組合・関連団体行事予定～

8月2日(火)広報委員会
8月3日(水)正副理事長会
8月19日(金)全鍍連技術委員会
8月26日(金)技能教育委員会
9月6日(火)監事会
9月7日(水)正副理事長会・理事会
9月8日(木)環境委員会
9月15日(木)全国中央会全国大会
9月16日(金)全鍍連北海道東北ブロック会議
10月4日(火)広報委員会
10月5日(水)正副理事長会
10月6日(木)環境委員会
10月12日(水)技能教育委員会
全鍍連近代化三役会・広報委員会
10月18日(火)訓練校工場見学
10月20日(木)全鍍連関東甲信越静ブロッ
ク会議・技術三役会・コンクール審査委
員会
10月26日(水)全鍍連総務委員会
10月27日(木)監事会
10月28日(金)全鍍連中国四国九州ブロッ
ク、東海北陸ブロック、近畿ブロック会
議
11月2日(水)正副理事長会、理事会
11月17日(木)全鍍連交際三役会
11月24日(木)全鍍連常任理事会・理事会・
第43回全国大会
12月1日(木)正副理事長会
12月6日(火)広報委員会
12月7日(水)全鍍連環境対策委員会
12月8日(木)環境委員会
1月12日(木)正副理事長会・賀詞交歓会

工組 第2回 理 事 会

組合員増強運動検討

と き 平成17年7月6日(水)
午後6時30分～8時

ところ めっきセンター

出席者 大村 姫野、由田、川上
間部、八幡、青木
木下、元井、中澤、高倉
志田、篠根、小嶋、小澤
神谷、池田、安斎
遠藤、西田、小橋、荻宿
高橋、若山、小谷野、藤田
原、佐藤、池田、吉川
宮川、高松、木下、斎藤
永田、細井、小倉、広根
石田、岡本、西原、柴

(監事) 新井、柏村、平野

とを報告、大村理事長が開会の挨拶のあと議長となり、議事録確認者として、城東支部長の遠藤清孝理事、城西支部長の小橋秀一理事を指名した。

議事に先立ち、今期新たに就任された西田理事、高橋理事、若山城南支部長、佐藤大田支部長、宮川理事、高松理事、小倉葛飾支部長、広根理事、木下中央支部長から自己紹介があった。

また、神谷広報委員長が広報暑中名刺広告及び新年名刺広告の協賛のお願いをした。

姫野副理事長は第8回親睦ゴルフ大会について「各支部長のお骨折りを頂いて、115名という大勢の参加を頂いて盛大に開催できたことを厚くお礼申し上げる。当日は由田副理事長のホールインワンというハプニングがあったが、由田副理事長に一言お願いしたい」と挨拶。由田副理事長から「大きな大会で夢のようであったが、みなさんから祝福を頂いて本当に有り難く思った。後のことは姫野副理事長と相談しながら進めたい」とお礼の言葉があった。

青木専務理事が定足数を満たしているこ



1. 平成 18 年度東京都予算への要望事項について

青木専務理事が、重要性等の観点から、次の3つに要望事項を絞ったことを説明、承認された。

平成 18 年度東京都予算への要望事項

東京都鍍金工業組合

1) 土壌汚染対策に関するお願い

東京鍍金公害防止協同組合(1) 土壌汚染対策法に規定する土壌汚染調査猶予措置や、土壌汚染対策法施行規則に規定する経過措置(工場等の敷地面積が 300 m²以下の土地における一部調査の免除措置)が講じられるよう、東京都環境確保条例の柔軟な運用をお願いしたい。

(2) 土壌汚染調査や土壌浄化措置に要する費用の負担能力が低い中小企業に対して、財政上の援助(例えば、都から関係機関に働きかけて、国・都道府県・市区町村・事業者が各々費用の4分の1ずつ負担する制度を創設する)等、東京都環境確保条例に規定する「必要な助成措置」をお願いしたい。

2) 技能検定実施に関するお願い

電気めっき技能検定(実技試験)の実施にあたって、検定委員及び補佐員のほかに必要な応援要員(組合員、職員)に係る経費を、協力経費として東京都職業能力開発協会が負担できるよう、予算措置をお願いしたい。

3) 水道料金・下水道料金の減額措置継続に関するお願い

めっき業に対する水道料金、下水道料金の減額措置が、平成 18 年度以降も継続適用されるよう、特別の配慮をお願いしたい。

なお、多摩地域においては、めっき業に対する下水道料金の減額についての各市の対応はまちまちでありますので、すべての事業者に公平な措置が講じられるよう、都から関係市への働きかけをお願いしたい。

2. 平成 17 年度顧問・相談役会の開催並びに大村理事長の東京都都中小企業団体中央会、全国鍍金工業組合連合会両団体会長就任祝賀会について

青木専務理事が、顧問・相談役会の後、引続き祝賀会を開催することを説明し、了承された。

開催日 7月27日(水)

会場 東京プリンスホテルパークタワー
地下2階「さくら」

顧問・相談役会：午後5時～

会長就任祝賀会：午後6時～

3. 員外事業所の組合への加入依頼について

青木専務理事が、近日中に下記組合員増強協力の文書と、電話帳に基づいた支部別員外事業所一覧を各支部長に送付するので員外事業所のチェックをお願いしたいと報告、了承された。

組合員増強にご協力ください

東京都鍍金工業組合

東京鍍金公害防止協同組合

理事長 大村 功作

拝啓 支部長の皆様には、日頃より組合運営への積極的な取り組みをいただき、また、政策要望実現のための諸活動にご支援ご協力賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成 17 年度事業計画において、組合運営の基本方針として、いわゆる「4本の柱」のほかに『アウトサイダーの組織化』を掲げました。

組合員数が増加しますと、組合員相互の交流の輪が拡大し、ビジネスチャンスや情報交換の拡大が期待できますし、政策要望を実現するための影響力が増大します。また、スケールメリットを活かして組合員経営者・従業員への各種組合サービスの充実が図れるなどのメリットがあります。

しかし残念なことに、近年、長期不況や

国内製造業の空洞化などにより、組合員数は減少の一途をたどっています。そこで、デフレ克服と組合員サービス向上を期して、組合員増強に取り組むことになりました。組合員増強の推進に当たっては、事務局が組合員サービスの向上を含めこれまで以上に努力することは勿論のこと、役員・委員会委員・支部役員の方々にもご協力をいただきたいと思いますが、まずは、各地域の実情を把握しておられる支部長の皆様のご協力を仰ぎたいと存じます。

具体的には、事務局でNTTの電話帳に基づいて調査し、作成した別添「支部別員外事業所一覧表」に記載した各事業所について、チェックをお願いしたいと存じます。これらの事業所には、組合加入のメリット等を記載したチラシ等を本部からお送りする予定ですが、中には、種々の事情で組合を離れていかれた事業所が含まれている可能性がありますし、実際にはめっき業を営んでいないところもあるかも知れません。

こうしたことを踏まえて、支部長の皆様には、組合加入の働きかけをする必要性の有無について、事業所別の一覧表にて本部事務局へ情報を提供していただければ幸甚に存じます。

支部長の皆様におかれましては、厳しい経営環境下、また業務ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、本趣旨をご賢察いただき組合員増強にご協力賜りますよう、よろしく御願い申し上げます。 敬具

4. 新規組合員の加入について

大田支部・東京黒染工業所(代表者：菅野正氏、大田区大森西 1-14-25)の加入申込みを承認した。

5. 平成 17 年度組合員の異動

加入 2 社(有)志田工業所、東京黒染工業所、脱退 2 社(向島支部(有)宇野メッキ、(有)

板倉鍍金工業所)、変更 1 社(中央支部・中村鍍金工業(株)代表取締役社長 中村建夫→代表取締役社長 中村建輝)、現組合員数 507 社。

6. 4~5 月次予算実績管理表・残高試算表

青木専務理事が 2 ヶ分の状況を説明、了承された。

(報告事項)

1. 平成 17 年度事務分掌・事務局組織図

青木専務理事が、環研、訓練校、事務局の職務分担を説明した。

2. 平成 17 年度役員・委員・顧問・相談役・総代名簿

例年役員改選時に、内部資料として同名簿を発行していたが、記載事項としては、役員の名、法人名、住所、電話番号等で十分であり、今回は個人情報保護法の趣旨に則って、自宅住所、電話等を入れないことにした。

3. 平成 17 年度技能検定実技試験

試験日 7 月 23 日(土)・24 日(日)/めっきセンター

受検者 1 級 16 名、2 級 53 名、3 級 1 名 計 70 名

八幡副理事長から「年々受検者が増えており、今回 70 名、試験は両日朝 8 時から午後 7 時まで一杯の状況である。過去の委員経験者にお手伝い頂くことが必要になるかもしれないが、その際にご協力をお願いしたい」と説明した。

4. 平成 17 年度全鍍連全国めっき技術コンクールについて

研磨-装飾クロムめっき部門、装飾クロムめっき部門(無研磨)、亜鉛めっき部門(無研磨)の 3 分門、申込締切 8 月 5 日、11

月 24 日(木)の第 43 回全国大会で入賞発表及び表彰式が行われる。

八幡副理事長が「現在応募が少ないので支部に帰って多くの参加を頂くよう PR してほしい。全鍍連の大きな行事であり、参加者が少ないと大臣賞等を頂けなくなるのでご協力をお願いしたい」と要請した。

5. 第 39 回永年勤続優良従業員表彰について

青木専務理事から、例年通り、7 月 31 日現在で 3 年、5 年、10 年、15 年、20 年、25 年、30 年、30 年以上勤続者の表彰状申込みの受付(締切 8 月 22 日)を行うことを報告した。

6. 年間行事予定について

組合、全鍍連、関連団体等の年間行事予定を報告した。

7. その他質疑応答

篠根常任理事が、支部行事のため欠席の今泉支部長の伝言として、ゴルフ大会は 4 人 1 組でプレーするが、同じ支部の人がいないため間が持たないという意見があり、直して頂きたいと説明。

ゴルフ大会実行委員の高倉常任理事は、1 組に同じ支部員 2 人を必ず入れることを前提にすると組み合わせが難しくなる。他支部との親睦を深めることが趣旨であり、ご理解を頂きたいと説明した。

永田足立支部長は、1)毎年公明党議員団と懇談しているが、今年も 7 月 22 日に行う。本部の要望と整合させたく、組合の要望事項を確認したい。2)現在支部内で廃業する方がおり、土壤汚染問題に関連して指導に苦慮している。廃業届を出す土壤調査をしなければならないが、汚染が判明すると莫大な処理費用がかかり、自分の土地に住むこともできない。長年一緒にやってきた仲間であり、相談に乗れないのは情けないこ

とで、他支部はどのように指導しているのか、組合で対応マニュアルを作れないか等を質問した。

大村理事長は、公明党さんには排水規制問題をお願いしている。土壤汚染問題は組合執行部も関係官庁に働きかけているが、難しい状況である。都環境確保条例で定める「工場若しくは指定作業場を廃止・除去するとき」の窓口は区・市なので、支部執行部は区と良好な関係を築きながら折衝に当たっていただきたい。各支部の状況を知りたいとの要望には広報座談会を開きたいと説明した。

最後に、姫野副理事長が、7 月 27 日の顧問・相談役会、祝賀会を盛大に開催できるようご協力をお願い申し上げますと閉会の辞を述べ、理事会を終了した。

工協組・第 1 回 広 報 委 員 会

委員会開催年間予定決める

と き 平成 17 年 6 月 7 日(火)
午後 6 時 30 分～

と ころ 上野公園「韻松亭」

出席者 姫野、神谷、半田
内山、溝口、板倉、藤田
佐藤、堀江、小島、広根
籠利、野田、岡

(前委員)木村、上原

ワザガバー-由田、川上、間部、青木
小原

神谷委員長の司会により、姫野副理事長は「第 1 回委員会にお忙しいなか副理事長をはじめ委員のみなさんのご出席を頂き感謝申し上げます。本日は長年木村前委員長が

委員会を引っ張って頂いたことに対する慰労を兼ねて開催する。今後とも組合員のみなさんに親しんで頂ける広報作りを進めて参るのでご協力をお願い申し上げます」と開会の挨拶をした。

神谷委員長は「私も広報委員としては長いですが、今年度から委員長を仰せつかった。みなさんにはつま恋坂、支部シリーズ等の常設欄を担当して頂くのでご協力をお願い申し上げます。私も私なりに広報紙面を変えていきたいと考えている。余り読み書きは得意ではないが、みなさんと一緒に取り組んでいくのでご協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

第1回ということで、はじめに委員会開催年間予定表、割付表、常設欄一覧、7.8月の編集方針等の配布資料を検討した。

1. 平成17年度委員会開催年間予定

(開催日時:原則第1週火曜日午後6時30分)

第1回:6月7日(火)、第2回:8月2日(火)

第3回:10月4日(火)、第4回:12月6日(火)

第5回:2月7日(火)、第6回:4月4日(火)

2. 広報7.8月号の編集方針について

広報7月号は正副理事長座談会、大村全鍍連会長の所信表明等を掲載する。8月号は役員、委員、顧問相談役等の顔写真集を中心に編集を進めることを確認した。

最後に半田副委員長が「今日は6年間務めて頂いた木村前委員長の慰労を兼ねて行こうが、新しく3名の方が委員に加わって頂き、ご協力をお願い申し上げます」と閉会の挨拶をして委員会を終了した。

このあと、木村前委員長に記念品を贈呈。木村前委員長は「6年間長いようで短かったような気もする。みなさんに支えられて何とか務めることができ感謝申し上げます。私は昨年ベトナムへ行っているが、先月も4日間ほど訪れたので、今日のみなさんに何かお土産をと思った」と述べるとともに、出席者全員にベトナムのお土産(楊枝立て)を贈った。このあと川上副理事長の乾杯音頭で懇親会に入った。



広報座談会

正副理事長 今年度活動方針を語る

めっき業界は土壤汚染問題をはじめ亜鉛規制強化の動きなどの難問を抱え、この解決へ向けて組合活動が展開されている。組合活動は各委員会が中心となって進められており、それを統括する正副理事長に平成 17 年度の活動方針等について伺った。司会進行は神谷広報委員長である。

東京組合、全鍍連、都中央会会長としての抱負

神谷委員長 貴重な時間を割いて広報座談会にご協力を頂きありがとうございます。年度始めに正副理事長に新年度事業に対するの抱負をお聞きしています。はじめに大村理事長に平成 17 年度の組合運営について、特に総代会の時に挨拶された支部組織の見直しを含めてお願いします。

大村理事長 基本的に前年度の事業を引継ぐということでこれまでの流れと変わるわけはありません。特に総代会の時にお話した土壤汚染問題と支部の統廃合の問題に関しては

別枠で重点事項として今期取上げていきたいと考えています。具体的にどういう方法でやるか、まだ正副理事長と話し合っていないですが、基本的には正副理事長がリードしていかなければなりません、この2つの問題を今期の最重要課題としてやっていこうと考えています。

神谷委員長 5月の総会で全鍍連会長に就任されて今後の全鍍連運営についてお願いします。

大村理事長 総会の時にお話ししましたが、基本的には前会長が今年度の事業計画を発表していますから、それに則ってやっていきたい。その上でこれはいけないとか、追加することがあればそれなりに執行部のみなさんに相談して進めていきたいと考えています。細かいことを話すと切りがありませんが、賦課金の問題を含めて、これからどういう形でやっていけばいいのか、基本的に組合は利益団体ではないので、賦課金で全鍍連が運営できるような仕組みにもっていかないといけない



と思う。それにはどうしたらいいのか、これからみなさんと話し合ってくださいと思っています。もう1つは環境問題です。水性生物保全に伴う亜鉛の問題、ほう素、ふっ素、窒素の問題、土壌汚染の問題と大きな課題がありますから全鍍連としても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

神谷委員長 東京都中小企業団体中央会の会長に就任されましたが、中央会とはどういうものか、めっき業界の人にも分かりやすく説明を頂けますか。

大村理事長 基本的に中小企業の組合が加盟して構成される団体です。鍍金組合では工業組合と協同組合の2組合が加盟しています。さきの総会時に2071団体が加盟していましたが、現在は若干減少しています。企業数は33万企業を超えており、組織としては、会長1名、副会長6名、専務理事1名、常任理事20名、理事65名、監事3名となっており、職員としては巡回指導員26名、労働指導員4名、商店街指導員8名、職員4名、一般職員7名の計49名となっています。

神谷委員長 大きな組織ですね。

大村理事長 細かい事業内容は省くとして今回、全国中央会の全国大会の議案として東京中央会として土壌汚染問題を提案しようと検討しています。まだ通るかどうかわかりません。業種も多岐にわたっていますが、私もめっき業界のことしかわかりませんから、めっき業界の問題を取上げて下さいと、取り敢えず委員会で決めていきますが、さらに1都10県の関東甲信越静岡ブロック会議があって、そこを通ると全国中央会で審議されます。

神谷委員長 全国中央会は大きな組織ですから取上げられればかなりの影響力はありますね。

大村理事長 全国大会には国会から総理大臣や大臣クラスが出席し影響力は相当あると思います。

広報、経済研究会、全鍍連総務委員長としての抱負

神谷委員長 広報並びに経済研究会担当の姫野副理事長に平成17年度の方針をお願いします。

姫野副理事長 新しく神谷委員長のもとで、より親しみやすく、情報を適確に組合員のみなさんにお伝えする広報誌を作りあげて行きたいと思います。委員長はじめ委員会のみなさんのご協力をお願いします。

組合活動は厳しい環境にあるわけですが、特に東京の場合は土壌汚染が大きな問題になっております。東京都とのパイプ役をつとめて頂く議員の先生方とはより密度の濃い関係を築いて、行政とのパイプをより太くして、風通しの良い関係を築いていきたいと考えています。

神谷委員長 今期より全鍍連の総務委員長という要職に就かれましたが、どのような活動をされていくのでしょうか。

姫野副理事長 大村理事長が全鍍連会長に就任されて、笹野前会長時に総務委員会として決定事項がありますので、その流れに沿って活動していきます。将来的なスタンスでみていくと、理事長からも話しがありました。全鍍連の運営ということで、5年10年20年先を見たところで堅実に全鍍連が存続していかないといけないわけで、自分の任期だけという目先のことだけではなく、将来を見据えていかないといけない。基本的に賦課金の中で運営していくことですが、来年度は1000万円以上の赤字が出ることが確実ですから、この辺をどうみなさんの知恵を借りながら全鍍連の改善を進めていくか、総務委員会のみなさんとともに真剣に検討していかないといけないと考えています。原資をどう捻出していくかが今後の基本的な課題になると思いますので、将来を展望した中できちんとした道筋がつけられるような方策を考えていきたいと思っています。

神谷委員長 10年20年先を見通した改善と

ということですね。確かに企業数が減ってきているのに固定費だけ変わらないのは先が見えています。資金確保を含めてきちんとした形で 30 年先まで見通して検討していくことが重要ですね。

次に総財務担当の由田副理事長に 17 年度の方針をお願いします。

総財務委員会の課題

由田副理事長 新しく委員長に小澤常任理事、副委員長に池田常任理事、篠根常任理事が就任されました。昨年はめっきセンターの大掛かりな改修工事を行いました。一応は整って、当面はこれでいけますが、多少費用で赤字になってしまいました。今後も改修は必要であり、組合員の皆様には今後もセンター維持積立金をお願い致します。支出が先行しましたので、今後は少しずつでも回収していきたいと考えています。

基本は健全な組合運営をしていくことで安定した収支をどう図っていくか、景気も以前より多少安定したこともあり、脱退者も減り気味になっていますが、どこまでいって落ち着くのか、総財務委員会もどの辺が収支の分岐点になるかシュミレーションなどを行って把握しながら、脱退者の出資金払戻の受皿の問題もあり、これら対応を仕組みで考えていきたいと思っています。やはり収益を上げてある程度賄うことも必要で、最近公防協組にお世話になっているので、今後とも支援をお願いしたい。

健全経営、安定収入のためにも効率的な運営をしていかなければなりません。いまは職員も安定して事務も効率的ですが、さらにコンピュータを活用した効率化を図りたい。昨年はみなさんの協力により退任役員の記念品制度の規程を整備してある程度効率的な運用になってきました。

神谷委員長 昨年 12 支部合同新年会が盛會裡に行われましたが、今年度は如何ですか。

由田副理事長 正副理事長会としては、実績

を踏まえて恒例行事にしたい意向で、来年も続けていきたいと考えています。東京組合の一体化、全体の力、そういうイメージを図れたと思いますので、組合恒例行事として定着して頂ければ有り難いと思います。

環境問題に対して

神谷委員長 環境委員会担当の川上副理事長をお願いします。

川上副理事長 これまで副委員長の安齊常任理事が委員長に就任されました。環境と物づくりの両立が大事ですが、いまの流れからすると、環境の方に重きが置かれています。どんなに規制が厳しくなってもいいが、それには我々産業が生き残れることを考えて頂かないといけないのではないかと。いまの行政は前向きなことには援助するが、後ろ向きなことは評価しないように感じます。一番の問題は、ほう素、ふっ素ですが、2回暫定基準を頂いて、まだ処理技術が確立出来ていない。ふっ素を処理した場合、数十倍のスラッジが出てしまう問題があり、逆に処理したために環境がもっと悪くなってしまう心配があります。そのために組合としては使用を削減していくしかないのではないかと、どこまで削減できるか、これから煮つめていかないといけません。2回の暫定は6年ですね。6年間やって処理技術が見つからないことは厳しすぎるじゃないかと、亜鉛の水性生物の問題で、全鍍連は経産省に要望書を出してきました。いままで 5ppm の基準、5ppm の基準でも排水には波があり 2ppm~3ppm で管理しないと 5ppm は守り切れない。そういうデータを収集し現状をよく把握していきたい。もう1つ、土壤汚染の問題では、これから土壤汚染のリスクを背負ってまでめっきをやる人はいないと思う。いままでの業界のみなさんが残って頂かないと業界が死滅してしまう。金属表面処理として金属、電気がある限りめっきは継続していかないといけないと思っています。

神谷委員長 環境プロジェクトの活動はいか

がですか。

川上副理事長 環境委員会と一緒にですが、あくまでも物づくりと環境の両面からどうしたら我々が生き残れるかを目標にやっていかなければいけないと思っています。

公防協組の運営

神谷委員長 間部副理事長に公防協組の運営についてお願いします。

間部副支部長 難しいセクションを預かりまして、会社で言えば非常勤役員みたいなもので、小原専務理事を筆頭に現場の方がいて、そこで大局的に色々なことをいうこともありますが、中には意見が分かれることもあります。この発言も私的なものになってしまうといけないので、開催案内を頂いてさっそく専務と連絡をとり現場とのギャップをどう埋めるか、運営は経営と同じですから、電話で意見を集約してきました。まず今年度の運営方針として、産業廃棄物処理の環境保全の取組、それと処理施設の維持管理のための努力、特に環境管理のため ISO14001、2004 年版認証取得を目指して今職員のみなさんが一所懸命取り組んでいます。目標は来年3月の取得です。

その他東京都とのエコトライ協定や本日の正副理事長会でも審議しましたが、一般企業では IR 活動、インフォメーション・リレーションという情報開示をやっていかなければなりません。詳しくは産業廃棄物処理業者の有用性の判断に係る評価制度の取組みをしていかなければなりません。

環境管理システムの構築によって職員のみなさんが環境への認識を新たにすることが出来て、環境保全への使命をしっかりと果たしていきたいと思っています。

事業形態については単独で確保できる経営資源には限りがあります。出来ればナレッジ・マネジメント、他の企業、大学研究機関と連携をして、お互いに相互交換を行って、新しい分野に進出、事業の拡大が図れば有効

ではないかと考えています。

細かいことは運営委員会がありますから、神谷さんはじめ委員のみなさんにご審議を頂きたいと考えています。これだけ変化の激しい経済環境のなかで、例えば同じ企業と永続的に取引ができる保証はないわけです。何としても新規顧客の開拓を進めていかないとけない。このところ集荷処理量が減少しています。この状況に対してどんな事業を展開していくか、簡単にできるものではありませんが、将来に向かって公防協組の重要な課題であると考え、その中で収益を上げて行きたいと考えています。

土壌汚染問題に対して公防協組として平成15年2月に環境省の土壌汚染調査指定機関の指定を受けて、現在関連会社と協力して土壌汚染対策事業を行っていますが、法律自体が不条理というか、納得のいかない法律ですが、出来た以上はコンプライアンス、守らないといけないので、そのあたりの整合性をどのようにとっていくか、特に事業所が廃業すると、土壌汚染処理の負担能力がないところが多いわけです。企業に責任を押しつけて一方的に負担させる制度上の問題をなんとかしたいが、法律は変わらないと思いますが、何らかの形で行政支援を頂くなどの問題提議をしてみたいと思っています。

もう1つ、将来的にやっていきたいのは、現在操業中の工場がありますが、過去に起因するリスクを背負っていると思う。操業中でも何かリスクを低減する方法はないか、運営委員会に図って公防協組主導で提案していきたいと考えています。

もう1つ、総財務委員会に申し上げたいのが、システムの一元化を図って頂きたいことです。例えば公防協、環研、工業組合があり、いまコンピュータを使って色々な業務を行っています。例えば給与計算などは同じようなシステムであると思います。同じシステムなら一元管理が出来ますので、職員の労力負担も少なくなり、スピードアップも図れる。

事務の効率化も図れる。こうしたシステムが構築出来れば有効に合理化出来るのではないかと思います。総財務委員会に提案していきたいと考えています。

技能検定、訓練校の運営

神谷委員長 技能教育担当の八幡副理事長に今期の方針をお願いします。

八幡副理事長 技能教育委員会はベテランの志田委員長のもとに運営されており、運営方針も委員長が立てるもので、私は補佐する立場かと思います。大きな事業として訓練校と技能検定がありますが、訓練校の運営ではアイデアや情報提供する形になります。

技能検定は実務的にも動かないといけませんので、これまでの流れを考えますと、やはりある程度慣れている方が必要になります。といって同じ方が長年にもわたってやるわけにもいきませんので、毎年若干名が交代して頂くのがベターかと思います。今年も新しく3名の方が入ってきて、副委員長も新しく中澤さんが加わって頂きましたので、良い形で交代されているのではないかと考えています。実務上は環研の人が用意をして頂きますが、実技試験の運営にはベテランの委員さんが必要です。今年も70名が受検されます。1級が増えていますので、今年は朝8時に始まり夕方7時くらいまで2日間目一杯の状態で、限界です。

この状況に対して色々な案が上がっています。問題になるのが1級の不調液で1時間15分かかりますから、現在の地階だけでなく6階の環研も使ってはどうか、この場合人員が二手に分かれるので現在より人手を必要とします。また実地だけを進め、分析を後日行う方法など色々な案が出ていますが、委員の方は会社の現場で働いている方が多く、土日以外の金曜を使うことに難しいことがあります。2級は毎年60名くらい受検があり、その方達がいずれ1級に挑戦される。同じ70名でも1級2級受検者のバランスが崩れてくると色々

な難しい問題が出てきます。また、3級の試験は簡単なものですが、立ち会う試験員は2級より目が離せず余計人員が必要になることがあって、これから受検人数が増えてくると難しい問題が出てくるなあと感じています。

神谷委員長 最後に訓練校校長としてお願いします。

八幡副理事長 訓練校は若い人を育てる重要な教育機関だと思います。ここ数年、毎年定員オーバーの応募を頂いて嬉しい状況ですが、逆に入校出来ない方もいます。一応定員40名ですが、目一杯の50名を受入れており、それ以上多くなると2クラスにしないといけない規程があるようです。各分野の色々な先生にお願いしていますが、先生方も高齢化してきています。年齢云々ということはありませんが、委員会としてはある程度次のことを考えておかないといけないということで、今後お願いするに当たって、訓練生から、現場的な技術を聞きたいという意見がアンケートにも寄せられています。現場の第一線で得意な分野を1科目でも持って頂ければ、生徒の希望にも沿えるし、講師の負担のかからない時間でやって頂けるのではないかと考えています。いま長時間受け持っている先生がおり、今後の課題になっています。

神谷委員長 長時間にわたり貴重なご意見を頂き有り難うございました。最後に広報委員会について少し申し上げると、今年度私が委員長を承りましたので、今後少しでも違ったカラーを出していきたいと考えています。組合員の方からの投書欄、みなさんの意見を取上げていくような欄、あるいは見やすい娯楽的なもの、当支部内にはこんな味自慢のお店がありますとか紹介する欄も、見て頂けるチャンスになるのではないかと考えています。色々考えていきますので、みなさんの協力をお願いします。本日は有意義なお話を有り難うございました。

広報座談会

正副理事長 今年度活動方針を語る

めっき業界は土壤汚染問題をはじめ亜鉛規制強化の動きなどの難問を抱え、この解決へ向けて組合活動が展開されている。組合活動は各委員会が中心となって進められており、それを統括する正副理事長に平成 17 年度の活動方針等について伺った。司会進行は神谷広報委員長である。

東京組合、全鍍連、都中央会会長としての抱負

神谷委員長 貴重な時間を割いて広報座談会にご協力を頂きありがとうございます。年度始めに正副理事長に新年度事業に対するの抱負をお聞きしています。はじめに大村理事長に平成 17 年度の組合運営について、特に総代会の時に挨拶された支部組織の見直しを含めてお願いします。

大村理事長 基本的に前年度の事業を引継ぐということでこれまでの流れと変わるわけはありません。特に総代会の時にお話した土壤汚染問題と支部の統廃合の問題に関しては

別枠で重点事項として今期取上げていきたいと考えています。具体的にどういう方法でやるか、まだ正副理事長と話し合っていないが、基本的には正副理事長がリードしていかなければなりません、この2つの問題を今期の最重要課題としてやっていこうと考えています。

神谷委員長 5月の総会で全鍍連会長に就任されて今後の全鍍連運営についてお願いします。

大村理事長 総会の時にお話ししましたが、基本的には前会長が今年度の事業計画を発表していますから、それに則ってやっていきたい。その上でこれはいけないとか、追加することがあればそれなりに執行部のみなさんに相談して進めていきたいと考えています。細かいことを話すと切りがありませんが、賦課金の問題を含めて、これからどういう形でやっていけばいいのか、基本的に組合は利益団体ではないので、賦課金で全鍍連が運営できるような仕組みにもっていかないといけない



と思う。それにはどうしたらいいのか、これからみなさんと話し合ってくださいと思っています。もう1つは環境問題です。水性生物保全に伴う亜鉛の問題、ほう素、ふっ素、窒素の問題、土壌汚染の問題と大きな課題がありますから全鍍連としても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

神谷委員長 東京都中小企業団体中央会の会長に就任されましたが、中央会とはどういうものか、めっき業界の人にも分かりやすく説明を頂けますか。

大村理事長 基本的に中小企業の組合が加盟して構成される団体です。鍍金組合では工業組合と協同組合の2組合が加盟しています。さきの総会時に2071団体が加盟していましたが、現在は若干減少しています。企業数は33万企業を超えており、組織としては、会長1名、副会長6名、専務理事1名、常任理事20名、理事65名、監事3名となっており、職員としては巡回指導員26名、労働指導員4名、商店街指導員8名、職員4名、一般職員7名の計49名となっています。

神谷委員長 大きな組織ですね。

大村理事長 細かい事業内容は省くとして今回、全国中央会の全国大会の議案として東京中央会として土壌汚染問題を提案しようと検討しています。まだ通るかどうかわかりません。業種も多岐にわたっていますが、私もめっき業界のことしかわかりませんから、めっき業界の問題を取上げて下さいと、取り敢えず委員会で決めていきますが、さらに1都10県の関東甲信越静岡ブロック会議があって、そこを通ると全国中央会で審議されます。

神谷委員長 全国中央会は大きな組織ですから取上げられればかなりの影響力はありますね。

大村理事長 全国大会には国会から総理大臣や大臣クラスが出席し影響力は相当あると思います。

広報、経済研究会、全鍍連総務委員長としての抱負

神谷委員長 広報並びに経済研究会担当の姫野副理事長に平成17年度の方針をお願いします。

姫野副理事長 新しく神谷委員長のもとで、より親しみやすく、情報を適確に組合員のみなさんにお伝えする広報誌を作りあげて行きたいと思います。委員長はじめ委員会のみなさんのご協力をお願いします。

組合活動は厳しい環境にあるわけですが、特に東京の場合は土壌汚染が大きな問題になっております。東京都とのパイプ役をつとめて頂く議員の先生方とはより密度の濃い関係を築いて、行政とのパイプをより太くして、風通しの良い関係を築いていきたいと考えています。

神谷委員長 今期より全鍍連の総務委員長という要職に就かれましたが、どのような活動をされていくのでしょうか。

姫野副理事長 大村理事長が全鍍連会長に就任されて、笹野前会長時に総務委員会として決定事項がありますので、その流れに沿って活動していきます。将来的なスタンスでみていくと、理事長からも話がありましたが、全鍍連の運営ということで、5年10年20年先を見たところで堅実に全鍍連が存続していかないといけないわけで、自分の任期だけという目先のことだけではなく、将来を見据えていかないといけない。基本的に賦課金の中で運営していくことですが、来年度は1000万円以上の赤字が出ることが確実ですから、この辺をどうみなさんの知恵を借りながら全鍍連の改善を進めていくか、総務委員会のみなさんとともに真剣に検討していかないといけないと考えています。原資をどう捻出していくかが今後の基本的な課題になると思いますので、将来を展望した中できちんとした道筋がつけられるような方策を考えていきたいと思っています。

神谷委員長 10年20年先を見通した改善と

ということですね。確かに企業数が減ってきているのに固定費だけ変わらないのは先が見えています。資金確保を含めてきちんとした形で 30 年先まで見通して検討していくことが重要ですね。

次に総財務担当の由田副理事長に 17 年度の方針をお願いします。

総財務委員会の課題

由田副理事長 新しく委員長に小澤常任理事、副委員長に池田常任理事、篠根常任理事が就任されました。昨年はめっきセンターの大掛かりな改修工事を行いました。一応は整って、当面はこれでいけますが、多少費用で赤字になってしまいました。今後も改修は必要であり、組合員の皆様には今後もセンター維持積立金をお願い致します。支出が先行しましたので、今後は少しずつでも回収していきたいと考えています。

基本は健全な組合運営をしていくことで安定した収支をどう図っていくか、景気も以前より多少安定したこともあり、脱退者も減り気味になっていますが、どこまでいって落ち着くのか、総財務委員会もどの辺が収支の分岐点になるかシュミレーションなどを行って把握しながら、脱退者の出資金払戻の受皿の問題もあり、これら対応を仕組みで考えていきたいと思っています。やはり収益を上げてある程度賄うことも必要で、最近は公防協組にお世話になっているので、今後とも支援をお願いしたい。

健全経営、安定収入のためにも効率的な運営をしていかなければなりません。いまは職員も安定して事務も効率的ですが、さらにコンピュータを活用した効率化を図りたい。昨年はみなさんの協力により退任役員の記念品制度の規程を整備してある程度効率的な運用になってきました。

神谷委員長 昨年 12 支部合同新年会が盛會裡に行われましたが、今年度は如何ですか。

由田副理事長 正副理事長会としては、実績

を踏まえて恒例行事にしたい意向で、来年も続けていきたいと考えています。東京組合の一体化、全体の力、そういうイメージを図れたと思いますので、組合恒例行事として定着して頂ければ有り難いと思います。

環境問題に対して

神谷委員長 環境委員会担当の川上副理事長をお願いします。

川上副理事長 これまで副委員長の安齊常任理事が委員長に就任されました。環境と物づくりの両立が大事ですが、いまの流れからすると、環境の方に重さが置かれています。どんなに規制が厳しくなってもいいが、それには我々産業が生き残れることを考えて頂かないといけなのではないか。いまの行政は前向きなことには援助するが、後ろ向きなことは評価しないように感じます。一番の問題は、ほう素、ふっ素ですが、2回暫定基準を頂いて、まだ処理技術が確立出来ていない。ふっ素を処理した場合、数十倍のスラッジが出てしまう問題があり、逆に処理したために環境がもっと悪くなってしまう心配があります。そのために組合としては使用を削減していくしかないのではないかと、どこまで削減できるか、これから煮つめていかないといけません。2回の暫定は6年ですね。6年間やって処理技術が見つからないことは厳しすぎるじゃないか、亜鉛の水性生物の問題で、全鍍連は経産省に要望書を出してきました。いままで 5ppm の基準、5ppm の基準でも排水には波があり 2ppm~3ppm で管理しないと 5ppm は守り切れない。そういうデータを収集し現状をよく把握していきたい。もう1つ、土壤汚染の問題では、これから土壤汚染のリスクを背負ってまでめっきをやる人はいないと思う。いままでの業界のみなさんが残って頂かないと業界が死滅してしまう。金属表面処理として金属、電気がある限りめっきは継続していかないといけないと思っています。

神谷委員長 環境プロジェクトの活動はいか

がですか。

川上副理事長 環境委員会と一緒にですが、あくまでも物づくりと環境の両面からどうしたら我々が生き残れるかを目標にやっていかなければいけないと思っています。

公防協組の運営

神谷委員長 間部副理事長に公防協組の運営についてお願いします。

間部副支部長 難しいセクションを預かりまして、会社で言えば非常勤役員みたいなもので、小原専務理事を筆頭に現場の方がいて、そこで大局的に色々なことをいうこともありますが、中には意見が分かれることもあります。この発言も私的なものになってしまうといけないので、開催案内を頂いてさっそく専務と連絡をとり現場とのギャップをどう埋めるか、運営は経営と同じですから、電話で意見を集約してきました。まず今年度の運営方針として、産業廃棄物処理の環境保全の取組、それと処理施設の維持管理のための努力、特に環境管理のため ISO14001、2004 年版認証取得を目指して今職員のみなさんが一所懸命取り組んでいます。目標は来年3月の取得です。

その他東京都とのエコトライ協定や本日の正副理事長会でも審議しましたが、一般企業では IR 活動、インフォメーション・リレーションという情報開示をやっていかなければなりません。詳しくは産業廃棄物処理業者の有用性の判断に係る評価制度の取組みをしていかなければなりません。

環境管理システムの構築によって職員のみなさんが環境への認識を新たにすることが出来て、環境保全への使命をしっかりと果たしていきたいと思っています。

事業形態については単独で確保できる経営資源には限りがあります。出来ればナレッジ・マネジメント、他の企業、大学研究機関と連携をして、お互いに相互交換を行って、新しい分野に進出、事業の拡大が図れば有効

ではないかと考えています。

細かいことは運営委員会がありますから、神谷さんはじめ委員のみなさんにご審議を頂きたいと考えています。これだけ変化の激しい経済環境のなかで、例えば同じ企業と永続的に取引ができる保証はないわけです。何としても新規顧客の開拓を進めていかないといけない。このところ集荷処理量が減少しています。この状況に対してどんな事業を展開していくか、簡単にできるものではありませんが、将来に向かって公防協組の重要な課題であると考え、その中で収益を上げて行きたいと考えています。

土壌汚染問題に対して公防協組として平成15年2月に環境省の土壌汚染調査指定機関の指定を受けて、現在関連会社と協力して土壌汚染対策事業を行っていますが、法律自体が不条理というか、納得のいかない法律ですが、出来た以上はコンプライアンス、守らないといけないので、そのあたりの整合性をどのようにとっていくか、特に事業所が廃業すると、土壌汚染処理の負担能力がないところが多いわけです。企業に責任を押しつけて一方的に負担させる制度上の問題をなんとかしたいが、法律は変わらないと思いますが、何らかの形で行政支援を頂くなどの問題提議をしてみたいと思っています。

もう1つ、将来的にやっていきたいのは、現在操業中の工場がありますが、過去に起因するリスクを背負っていると思う。操業中でも何かリスクを低減する方法はないか、運営委員会に図って公防協組主導で提案していきたいと考えています。

もう1つ、総財務委員会に申し上げたいのが、システムの一元化を図って頂きたいことです。例えば公防協、環研、工業組合があり、いまコンピュータを使って色々な業務を行っています。例えば給与計算などは同じようなシステムであると思います。同じシステムなら一元管理が出来ますので、職員の労力負担も少なくなり、スピードアップも図れる。

事務の効率化も図れる。こうしたシステムが構築出来れば有効に合理化出来るのではないかと思います。総財務委員会に提案していきたいと考えています。

技能検定、訓練校の運営

神谷委員長 技能教育担当の八幡副理事長に今期の方針をお願いします。

八幡副理事長 技能教育委員会はベテランの志田委員長のもとに運営されており、運営方針も委員長が立てるもので、私は補佐する立場かと思います。大きな事業として訓練校と技能検定がありますが、訓練校の運営ではアイデアや情報提供する形になります。

技能検定は実務的にも動かないといけませんので、これまでの流れを考えますと、やはりある程度慣れている方が必要になります。といって同じ方が長年にもわたってやるわけにもいきませんので、毎年若干名が交代して頂くのがベターかと思います。今年も新しく3名の方が入ってきて、副委員長も新しく中澤さんが加わって頂きましたので、良い形で交代されているのではないかと考えています。実務上は環研の人が用意をして頂きますが、実技試験の運営にはベテランの委員さんが必要です。今年も70名が受検されます。1級が増えていますので、今年は朝8時に始まり夕方7時くらいまで2日間目一杯の状態で、限界です。

この状況に対して色々な案が上がっています。問題になるのが1級の不調液で1時間15分かかりますから、現在の地階だけでなく6階の環研も使ってはどうか、この場合人員が二手に分かれるので現在より人手を必要とします。また実地だけを進め、分析を後日行う方法など色々な案が出ていますが、委員の方は会社の現場で働いている方が多く、土日以外の金曜を使うことに難しいことがあります。2級は毎年60名くらい受検があり、その方達がいずれ1級に挑戦される。同じ70名でも1級2級受検者のバランスが崩れてくると色々

な難しい問題が出てきます。また、3級の試験は簡単なものですが、立ち会う試験員は2級より目が離せず余計人員が必要になることがあって、これから受検人数が増えてくると難しい問題が出てくるなあと感じています。

神谷委員長 最後に訓練校校長としてお願いします。

八幡副理事長 訓練校は若い人を育てる重要な教育機関だと思います。ここ数年、毎年定員オーバーの応募を頂いて嬉しい状況ですが、逆に入校出来ない方もいます。一応定員40名ですが、目一杯の50名を受入れており、それ以上多くなると2クラスにしないといけない規程があるようです。各分野の色々な先生にお願いしていますが、先生方も高齢化してきています。年齢云々ということはありませんが、委員会としてはある程度次のことを考えておかないといけないということで、今後お願いするに当たって、訓練生から、現場的な技術を聞きたいという意見がアンケートにも寄せられています。現場の第一線で得意な分野を1科目でも持って頂ければ、生徒の希望にも沿えるし、講師の負担のかからない時間でやって頂けるのではないかと考えています。いま長時間受け持っている先生がおり、今後の課題になっています。

神谷委員長 長時間にわたり貴重なご意見を頂き有り難うございました。最後に広報委員会について少し申し上げると、今年度私が委員長を承りましたので、今後少しでも違ったカラーを出していきたいと考えています。組合員の方からの投書欄、みなさんの意見を取上げていくような欄、あるいは見やすい娯楽的なもの、当支部内にはこんな味自慢のお店がありますとか紹介する欄も、見て頂けるチャンスになるのではないかと考えています。色々考えていきますので、みなさんの協力をお願いします。本日は有意義なお話を有り難うございました。

東京組合正副理事長

亜鉛排水規制に関して保坂経産副大臣に要望

全国鍍金工業組合連合会(大村功作会長)は6月9日付で経済産業省に「水生生物保全のための亜鉛排水規制に関する要望書」を提出し、亜鉛に関して、水濁法の排水基準は現行どおり 5mg/l として頂きたいなどを要望したが、改めて、全鍍連会長・東京都鍍金工業組合の大村功作理事長をはじめ姫野正弘副理事長(全鍍連総務委員長)、川上洋一副理事長(全鍍連環境対策副委員長)、青木治郎専務理事、全鍍連・布袋屋皓造専務理事が霞が関の経済産業省・保坂三蔵副大臣を訪ね、要望書の趣旨や業界の実情などを説明し、ご理解を求めた。

要望事項は、1.亜鉛に関して、水濁法の排水基準は、現行どおり日間平均排水量 50m^3 未満の事業所に対しては適用除外として頂きたい。〈理由〉現行の生活環境項目の排水基準は全て日間平均排水量 50m^3 未満の事業所に対して適用除外となっているが、平成15年9月12日の中央環境審議会答申「水生生物の保全に係る水質環境基準の設定について」において、水生生物保全のための環境基準は生活環境項目に位置付けられるとしている為。2.亜鉛に関して、水濁法の排水基準は現行どおり、 5mg/l として頂きたい。仮に 5mg/l よりも厳しくなることが避けられない場合は電気めっき事業者に関して暫定排水基準を 5mg/l として頂きたい。〈理由〉①亜鉛めっきは金属防錆のための重要な工法であり、亜鉛を他の物質に代替することは不可能である。

また小規模企業が大多数を占め資金力に乏しくまた狭隘な敷地に立地する電気めっき事業所は、高額な資金及び広い設置スペースを要する高度な排水処理設備の導入は不可能であり、排水濃度の低減は極めて困難である。亜鉛の排水基準が 5mg/l よりも厳しくなった場合、多数の事業所が廃業に追い込まれざるを得ない。②水生生物の保全が国民生活にとって有意義であることは十分理解するが、同時に事業者が行う産業活動も国民生活の基盤をなす重要な要素である。産業活動の観点を考慮せず事業者に過度の負担を強いることとなれば我が国産業の弱体化・国際競争力の低下をもたらし、結果として国民生活に不利益を与えることとなり、合理的ではない。

3.下水道の排除基準について、上記1～2と同様として頂きたい。〈理由〉電気めっき事業所の大半(約7割)は、排水を下水道に排出し、下水道法の適用を受けているため。



大村全鍍連会長 運営方針等語る

さる5月の全国鍍金工業組合連合会総会において新会長に就任された大村功作会長は、6月8日、業界紙誌を集めて今後の全鍍連運営について環境問題を含めて所信を表明した。概要は次の通り。

—新会長としての抱負—

大村会長 総会の時もお話しましたが、基本的には前会長の事業を踏襲し、それに足りない部分を正副会長会議、常任理事会にかけて、みなさんの意見を吸い上げて運営していきたいと考えています。いま一番の問題は環境ですが、なかでも、平成15年に施行された土壌汚染対策法の規制が業界の生死に係る大問題となっています。環境対策委員会を中心にみなさんと相談しながら、業界が希望を持てるような形で問題解決と取り組んでいきたいと考えています。基本的に反対、反対という考え方ではなく、できる事は積極的にやって、できない事をどう行政に訴えていくかになると思います。

土壌汚染は負の遺産で、法律ができる前から汚染されているわけで、最近になって地下に浸透しないように工夫して操業しているが、何十年前に汚染されたものを我々が責任を取るといっておかしいと思う。

これまでも東京組合の立場で、東京都環境局や都議会の先生方に、業界の状況を理解してもらうため機会ある度に話し合いをしてきましたが、全鍍連の立場では経済産業省や環境省等にも理解を求めていきたいと考えています。問題はめっき業の跡地利用で、廃業した時にめっき工場跡地がどのように利用できるか決まっていない。土壌調査費用の問題、土壌浄化費用の問題があり、いま個々の企業が負担することにな



っているが、この費用が莫大で我々が負担できるような額ではない。これを行政が援助してくれるような制度化を求めています。具体例を上げますと、東京で火事になっためっき工場があり、建替えの申請したところ、まず土壌調査をしないから始まった。めっき業が1ヶ月も2ヶ月も仕事をしなかったら得意先がなくなり仕事を再開できるかわからない。まして土壌調査費用が50坪ぐらいの土地で2000~3000万円ぐらい、汚染土壌を浄化処理すると1億円も掛かる。加えて拡散防止とか次から次へと色んなことを言ってくる。そうになると我々のような小規模工場では、これを負担するだけの余裕がない。やる気のある企業が再開できるように国や都にどうお願いしていけばいいのか検討していく必要があります。

この土壌汚染の問題は、東京だけの問題ではなく全国的なものである。現に工場のボーリング調査するように言われているのが、岩手、山形、群馬、愛知、三重の5県

あり、これで土壌汚染が見つかったとき、どう対策を取ればいいのか、県が全額援助してもらえればよいが、めっき工場が負担しなければならぬとなると大変なことになる。さらに都道府県が条例を改正し全国のめっき工場に適用される恐れもある。東京のように狭い敷地では無理である。5県に対してすでに組合から要望しているところがあるが、積極的に要望して、そんなことはできません、やるなら助成して下さいと強い働きかけをお願いしています。東京は特に環境確保条例の上乗せ基準でより厳しく規制されています。

—水生生物保全に伴う亜鉛規制強化の動きに対して—

大村会長 平成15年に水生生物保全のために亜鉛の環境基準が公示され、現在、排水基準値を検討する段取りになっていますが、現時点ではまだ動きがない。全鍍連としては現行どおり5mg/リットルとする事や日間平均排水量50立方メートル未満の事業所は適用除外する事、現行どおりできなければ暫定排水基準を設けるように経済産業省等に要望しています。いずれにしても亜鉛は人体にとって必須金属であり、ミネラルや薬品としても売っているものを規制だけ強化されるのはおかしいものです。環境が悪化するのであれば我々も守らないといけないが、現行の基準で環境が悪化することはないと思います。

—ホウ素、フッ素等の処理技術の動向—

大村会長 ホウ素、フッ素、窒素は、19年6月まで暫定基準が3年間延長されました。色々な処理方法が考案されていますが、未だに完全に安い処理技術が実用化されていません。技術の進歩は目覚ましいがありますが、今後の工業化の成功を期待していますが、万が一実用化されなかったら再度暫定基準を延長してもらえないと考え

ています。

—現在全鍍連事業として進めている経営革新法事業の終了に伴い収支のバランスが崩れると言われていたが、今後の財政運営について—

大村会長 全鍍連の運営は賦課金で賄うのが基本的ですから、賦課金で賄えない場合はどうしたらいいかを考えていかないといけないと思います。全鍍連が事業収益を上げていく組織ではありませんから色々な事業を模索してやることはいいが、基本的に賦課金で賄っていかなければいけないので、それで運営できなければどういう形にするか、副会長、常任理事のみなさんと相談して対処していきたいと考えています。

—後継者について—

大村会長 過去に後継者難で廃業した例もあったが、最近の東京組合を例に上げると、ここ数年職業訓練校の定員がオーバーの状態です。めっき業が見直されているような気がします。ただ、せっかく家業を継いだ後継者が、土壌汚染などで資産価値がなくなって、将来に希望が持たないようになったら困ります。父親達がめっき業は素晴らしい、景気が良く明るい元気な顔であれば、父親の後を継いでみようと思うかもしれません。

—全鍍連のインターネットの活用状況—

大村会長 全鍍連28組合のうち23組合がインターネットを活用して情報交換しており、ホームページの活用など、今後さらに活用が活発化していくものと思います。

—産学官の連携について—

大村会長 いま技術的問題の解決や新技術開発には産学官の連携が言われていますが、これまで以上に産学官がお互いの協力して頂き、特に環境対策は業界一番の問題であり、先ほどお話をした土壌汚染対策に関して知

識を出し合っ情報交換、アドバイスを受けなければ有り難いと思います。土壌汚染対策では国や都道府県の手厚い支援がなければ解決が難しいのですが、東京都がさきに排気ガス対策のためトラック業界に補助金を出しましたが、それなら土壌汚染対策に対して補助金を出してもおかしくないと思うので、こうしたことを積極的に訴えていきたいと考えています。

—産業空洞化やコスト問題—

大村会長 中国など東南アジアへの生産シフトに伴って国内のめっきの仕事が減少していますが、めっき業は下請加工業なので親会社が海外に行ったらどうにもならない。日本でしかできないという先端技術はほんのわずかで、あとは海外でも日本と同等に技術や設備は進歩しており、値段が安ければ海外に流れしまう。戻ってくるのを待つしかないと思います。昔、めっきや金型は日本の得意分野で東南アジアでは出来ないという話がありましたが、いまや同じようなレベルでしょう。生き残るには、日本にある仕事で如何に良いめっきを付けるか、内需拡大を図っていくことが大事だと思います。幸い製造業は上向いてきているので、まだまだ日本も期待出来るのかなと思っています。この上向き傾向がどこまで続くか分かりませんが、やはり製造業がなければ日本の産業は成り立たないという方向を示してもったことは良いことだと思います。

みんなで参加しよう 平成17年度全国めっき技術 コンクール

全国鍍金工業組合連合会は恒例の全国めっき技術コンクール開催に当たり、参加者を募集している。従来、コンクール参加は自社の通常ラインによる加工では困難であり、コンクール用の特別な装置・薬品等の準備が必要との認識から参加を控える組合員が多く見られたが、実際は自社の通常ラインによる加工を工夫することで十分対応可能であり、これまでもこうした通常ラインによる加工で多くの組合員が上位入賞を果たしており、積極的な参加をお願いしたいとしている。

主催 全国鍍金工業組合連合会

後援 (予定)厚生労働省、東京都、中央職業能力開発協会、日刊工業新聞社

種目①研磨—装飾クロムめっき部門

②装飾クロムめっき部門(注)無研磨

③亜鉛めっき部門(注)無研磨

参加料 1部門1口につき1万円(1部門につき3口まで応募可)

(訓練生(東鍍工組高等職業訓練校、大阪高等めっき技術訓練校)の場合参加料1部門1口につき7千円)

申込締切 8月5日(金)

出品締切 8月12日(金)

入賞発表&表彰式(予定)平成17年11月24日(木)全鍍連第43回全国大会

(予定)厚生労働大臣賞、厚生労働省職業能力開発局長賞、中央職業能力開発協会会長賞、日刊工業新聞賞、全国鍍金工業組合連合会会長賞。

問合せ:全国鍍金工業組合連合会事務局/
佐藤・山本(TEL03-3433-3855)〒105-0011
港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 206

8月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	月			城東支部	
2	火		大田支部	城北支部	
3	水	正副理事長会		中央支部	
4	木		品川支部・大田支部	目黒・世田谷地区	
5	金		城南支部	葛飾支部	
6	土				
7	日				
8	月		城西支部	足立支部	
9	火		城西支部・城北支部	西部支部	
10	水				
11	木			城南処理センター	
12	金			夏季休暇	
13	土				
14	日				
15	月				
16	火			品川地区	
17	水				
18	木	広報委員会			
19	金		中央支部・本所支部	葛飾支部	全鉄連技術委員会
20	土				
21	日				
22	月		向島支部	向島支部	
23	火			本所支部	
24	水		西部支部		十日会納涼会
25	木		城東支部・葛飾支部		
26	金	技能教育委員会		葛飾支部	
27	土				
28	日				
29	月		葛飾支部	蒲田・大森地区	
30	火			城西支部	
31	水		足立支部		

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

東鍍工組第8回親睦ゴルフ大会 渡辺健一氏(城西)個人戦優勝 由田猛副理事長がホールインワン

東京都鍍金工業組合第8回親睦ゴルフ大会が7月3日(日)、茨城県の阿見ゴルフクラブで、各支部組合員、材料協組の参加を得て、総勢115名で盛大に開催された。

朝8時15分開会式を行い、記念撮影後、高倉利守競技委員長からルール(新ペリアル方式)等の説明があり、8時45分からイン、アウトコースそれぞれ4人1組でスタートした。

午後4時頃、各組のプレーが終了しクラブハウスで成績発表とパーティを行った。高倉氏の司会により、はじめに姫野正弘実

行委員長は「大勢のみなさんの参加を得て盛大に開催できたことを感謝申し上げます。今年は天候に恵まれて十分にプレーを楽しむことができたと思う。実行委員のみなさんには会の運営に色々お手伝いを頂き感謝申し上げます。本来なら大村理事長が挨拶をするところ、体調を崩されて参加することが出来なかった。今回8回目ということで、由田副理事長がホールインワンを達成するというハプニングが起きた。後程みなさんからのお祝いを贈呈し、本人から喜びの言葉をお願いしたい。今日は都議選があり、



まだ投票されていない方は帰ってから投票して頂きたい。この会に対して工業組合、材料組合さんをはじめ大勢のご協力を頂いたことを感謝申し上げ、さらに来年、再来年へと発展継続出来るようお願い申し上げます」と挨拶した。

由田猛副理事長の発声で乾杯、なごやかなパーティの中で成績発表が行われた。個人戦・団体戦の成績は別掲のとおりで、個人戦では渡辺健一氏(城西支部(資)渡辺鍍金研究所)が優勝、コシヒカリ3俵が贈られた。団体戦は上位5名のスコアで争われ、昨年に続いて西部支部が優勝。レディース優勝は佐久間宗子氏(向島支部・ツクモ電鍍工業(株))、シニア優勝は(65歳以上)は石川輝夫氏(葛飾支部(株)ヒキフネ)、そのほか、上位10位、20、30、40位等の飛賞、ぞろ目賞、

正副理事長賞、ベスグロ酒巻正明氏(本所支部)、ブービー藤田直人氏(品川支部)、ニアピン、ドラコン、ドラタンなど各賞品が贈られた。また、アウト8番ホールでホールインワンを達成した由田猛副理事長にお祝いを贈呈、由田副理事長は「過分なお祝いを頂き感謝申し上げます。今日は良きパートナーに恵まれたことが幸いしたと思う。アウト8番ホールはプレー終了間近で良かった。これが最初の方だったら調子を崩してしまったのではないかと思う。ホールインワンは2回目で、最初は城西支部で出したが、これだけ大きな大会で達成出来たことは本当に有り難く感謝している」と喜びの言葉を述べた。最後に川上洋一副理事長と八幡順一副理事長が大締めを行い、大会を終了した。



第8回親睦ゴルフ大会・個人・団体戦の成績

順位	氏名	GROSS	HDCP	NET
1位	渡辺 健一	城西	88	15.6 72.4
2位	佐久間栄子	向島	98	25.2 72.8
3位	鈴木 厚生	材料	96	22.8 73.2
4位	今泉 好隆	城北	90	16.8 73.2
5位	中嶋 規夫	西部	89	15.6 73.4
6位	大内 源司	西部	88	14.4 73.6
7位	縄田 敏治	足立	88	14.4 73.6
8位	新井嘉喜雄	城東	88	14.4 73.6
9位	中澤 敏明	城南	99	25.2 73.8
10位	斎藤 功	中央	105	31.2 73.8
11位	狐塚 保之	葛飾	92	18.0 74.0
12位	木下 健次	城東	98	24.0 74.0
13位	石川 輝夫	葛飾	90	15.6 74.4
14位	久保 和克	城西	90	15.6 74.4
15位	横山 幹夫	西部	84	9.6 74.4
16位	小松 康宏	材料	89	14.4 74.6
17位	石田 昌久	向島	95	20.4 74.6
18位	久力智恵子	材料	94	19.2 74.8
19位	中 茂樹	城南	94	19.2 74.8
20位	酒巻 正明	本所	82	7.2 74.8
21位	斉藤 和久	城北	87	12.0 75.0
22位	木村 壽	材料	87	12.0 75.0
23位	平野 尚美	城北	92	16.8 75.2
24位	小口順一郎	大田	92	16.8 75.2
25位	佐久間隆太郎	向島	98	22.8 75.2
26位	戸塚 秀孝	城西	86	10.8 75.2
27位	高村 昌利	西部	85	9.6 75.4
28位	池田 悦昌	西部	91	15.6 75.4
29位	斉藤喜久夫	城南	96	20.4 75.6
30位	伏原 明人	城南	96	20.4 75.6
31位	志田 晴彦	大田	90	14.4 75.6
32位	柴田 徹	葛飾	108	32.4 75.6
33位	由田 猛	城西	95	79.2 75.8
34位	石川 芳英	足立	89	13.2 75.8
35位	間部健太郎	中央	100	24.0 76.0
36位	田中 秀和	城西	106	30.0 76.0
37位	高橋 憲一	城西	87	10.8 76.2
38位	高倉 利守	品川	86	9.6 76.4
39位	石川 英孝	葛飾	104	27.6 76.4
40位	寺内 倉治	葛飾	103	26.4 76.6



(優勝の渡辺健一氏)



(レディース優勝の佐久間栄子氏)



(シニア優勝の石川輝夫氏)

41位 関根 征子 葛飾
42位 島村 一男 西部
43位 深田 稔 向島
44位 太田 多一 葛飾
45位 角田 洋久 西部
46位 豊田 静雄 城東
47位 下田 篤 品川
48位 小倉 攻一 葛飾
49位 岡本 博司 本所
50位 大和田昌宏 城北
51位 斉藤 邦男 材料
52位 小西 博文 城南
53位 岡 正典 西部
54位 磯村 博明 足立
55位 二木 一郎 材料
56位 山下 陽右 西部
57位 新井 浩二 城西
58位 杉江 一郎 向島
59位 岩井 春治 向島
60位 原口 哲洋 足立
61位 矢野 尚武 葛飾
62位 姫野 郁江 西部
63位 田島 一夫 城北
64位 川上 洋一 大田
65位 金子 俊明 大田
66位 小澤 陽子 足立
67位 大木美津男 向島
68位 石田 義勝 城西
69位 並木 秀幸 城南
70位 小山 六男 材料
71位 田糰 洋 大田
72位 山田英佐夫 本所
73位 田代 政明 西部
74位 谷口 光洋 城南
75位 宍戸富士男 城北
76位 葛西 康二 大田
77位 平野普三雄 城北
78位 下平 誠 中央
79位 小澤 雅良 足立
80位 藤田 嘉雄 城南

81位 江原 一美 大田
82位 吉本 章二 材料
83位 池田 潤一 大田
84位 高橋 利行 城西
85位 上村 福子 材料
86位 西原 敬一 西部
87位 志田 矩昭 大田
88位 管野 勝靖 品川
89位 稲田 晴喜 西部
90位 広根 淳一 葛飾
91位 中山 博司 本所
92位 宮川 容子 大田
93位 小谷野英勝 城南
94位 野田 光昭 本所
95位 姫野 正弘 西部
96位 篠崎 賢吾 向島
97位 石川 茂夫 本所
98位 安西健一郎 本所
99位 小澤 栄男 足立
100位 永田 一雄 足立
101位 丹治幹三郎 西部
102位 関根 利定 葛飾
103位 上原 裕司 城北
104位 菊地 利夫 城西
105位 藤沼 靖智 向島
106位 八幡 順一 城東
107位 永安 裕之 城西
108位 志田 和陽 大田
109位 上田 浩司 城北
110位 小嶋 撰郎 中央
111位 海野 吉正 城北
112位 若山 雅史 城南
113位 木村 秀利 城南
114位 藤田 直人 品川
115位 梅田伊三夫 材料

シニア優勝

石川 輝夫 葛飾

レディース優勝

佐久間栄子 向島

B G 酒巻 正明 本所
 DC 志田 晴彦 大田
 中嶋 則夫 西部
 高倉 利守 品川
 杉江 一郎 向島
 池田 悦昌 西部
 永安 裕之 城西
 鈴木 厚生 材料
 DT 金子 俊明 大田
 小澤 陽子 足立
 石川 芳英 足立
 藤沼 靖智 向島
 小嶋 撰郎 中央
 海野 吉正 城北
 寺内 倉治 葛飾
 志田 和陽 大田
 NP 池田 潤一 大田
 酒巻 正明 本所
 石川 輝夫 葛飾
 石川 芳英 足立
 太田 亨一 葛飾
 丹治幹三郎 西部
 姫野 郁江 西部
 斎藤 和久 城北

団体戦順位



(団体優勝の西部支部・西原支部長)

- 優勝 西部支部
- 2位 城西支部
- 3位 葛飾支部
- 4位 向島支部
- 5位 城南支部
- 6位 城東・品川支部
- 7位 城北支部
- 8位 中央・本所支部
- 9位 足立支部
- 10位 大田支部

第8回親睦ゴルフ大会収支実績

収入の部		支出の部	
前回繰越金	37,549 円	パーティ費	485,975 円
会費 6,000 円×117 名	702,000 円	(料理・飲み物 114 名)	
(寄付金)		賞品代合計	591,335 円
東京都鍍金工業組合	50,000 円	(各順位賞品)	204,040 円
東京鍍金公害防止協同組合	50,000 円	(参加賞)	214,200 円
関東めっき健康保険組合	10,000 円	(正副理事長賞)	42,000 円
関東鍍金工業厚生年金基金	10,000 円	(コシヒカリ)	131,095 円
日本鍍金材料協同組合	20,000 円	その他合計	55,290 円
各支部より 10,000 円×12 支部	120,000 円	(チップ代)	29,000 円
正副理事長 10,000 円×6 名	60,000 円	(写真代)	10,000 円
(榊木下鍍金工場(中央))	10,000 円	(雑費)	16,290 円
参加材料組合員	52,000 円		
罰金	32,600 円	次期繰越金	21,549 円
合計	1,154,149 円	合計	1,154,149 円

8月 高等職業訓練校授業案内

		授業日(火・金)		授業時間(A:14:00~17:00 B:17:00~20:00)	
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)	
2	火	A	電気設備 (電気工学概論)	整流器の概要、電源設備、設置、保守、トラブル対策等。 富士電機工業㈱ 内野 孝	
		B	装飾クロムめっき① (めっき法)	目的、化学的・物理的性質、クロムの液成分と原理、表面性状、特性等。 明盛鍍金工業㈱ 高倉利守	
5	金	A	設備管理 (生産工学概論)	対流と噴流、ろ過の原理、活性炭処理、ろ布の特性。 ㈱三 共 山田 茂	
		B	装飾クロムめっき② (めっき法)	クロムめっきの電圧と電流曲線、つき廻り、均一電着性、3価クロムめっき 明盛鍍金工業㈱ 高倉利守	
9	火	A	硬質めっき① (めっき法)	工業用クロムめっき、めっき条件の要因と特性、建浴法、作業条件。 武蔵工業大学名誉教授 星野重夫	
		B	銅めっき① (めっき法)	硫酸銅めっき、調製、作業条件、管理、析出物性質。 訓練校 神戸徳蔵	
23	火	A	銅めっき② (めっき法)	不良対策、直流硫酸銅めっき、ホウ弗化銅めっき。 訓練校 神戸徳蔵	
		B	硬質めっき② (めっき法)	Ni系合金めっき、気相めっきの条件と特徴など。 武蔵工業大学名誉教授 星野重夫	
26	金	A	貴金属めっき① (めっき法)	貴金属の分類・特徴・諸性質、貴金属めっきの化学、電着機構 元デグサジャパン(株) 村楨 利弘	
		B	銅めっき③ (めっき法)	シアン化銅めっき、調製、作業条件、管理、電流波形 訓練校 神戸徳蔵	
30	火	A	貴金属めっき② (めっき法)	装飾用金めっき、カラーゴールドの分類種類、他の貴金属めっき等。 元デグサジャパン(株) 村楨 利弘	
		B	銅めっき④ (めっき法)	ピロリン酸銅めっき、めっき条件、ノシアンアルカリ浴、電子分野へのめっき 訓練校 神戸徳蔵	

訃 報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

芦澤武男氏(大田支部・羽田メタルコート(株)社長)6月17日死去、80歳。告別式は21日午前11時から下目黒の羅漢会館で行われた。喪主は芦澤志乃江様。

鈴木義久氏(足立支部・鈴木鍍金工業(株)社長)6月29日死去、84歳。告別式は7月1日午前11時から足立区竹ノ塚の竹ノ塚ホールで行われた。喪主は鈴木ふじ様。

村田信氏(コンサルタント)6月25日脳出血のため死去、88歳。告別式は27日京都市の中央祭典ホールで近親者により行われた。喪主は長男の誠氏。



研究開発進む「環境対応」

(日刊工業新聞 05.6.2)

古くて新しい表面処理技術であるめっき。電子部品に対する超微細めっきや、携帯電話ボディーなどに使われるマグネシウム合金へのめっき、樹脂材料に対する精密めっきまで、近年のレベル向上にはめざましいものがある。中でも、実用化のレベルで盛んに研究・開発が行われているのが環境対応技術である。鉛フリーめっきを使った電子部品や、三価クロレート処理によるネジ類はすでに一般ユーザーのもとへ到達するまでになっているが、めっきの使われるあらゆる場所への普及はこれからといえる。

今年から 07 年にかけて、日本も大きな影響を受ける欧州指令の発効が予定されている。使用済み車両からの廃棄物低減、適正処理を求めた ELV 指令、使用済み電子機器の分別回収やリサイクルを促す WEEE 指令、電気・電子機器を対象とした有害化学物質の使用規制 RoHS 指令である。日本の環境施策もほぼこれに沿った形で展開されるが、その一連の規制では、有害物質として鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭素化ビニフェル類(PBB)、ポリ臭素化ジフェニルエーテル(PBDE)の 6 物質の使用が制限される。なかでも、めっきの分野に関係が深いのは鉛と六価クロムだ。これらは電子機器や自動車など海外市場のウエートが高い商品に用いられるため、対策が急がれている。

都中央会会長に就任した大村功作氏

(日刊工業新聞 05.6.7)

5月12日に副会長から第5代目の会長に就任した。21年ぶりのトップ交代だ。健康面の不安から退任した菅谷頼道前会長の後を受け、かじ取りを担うことに。

「突然の出来事。幸い経験豊富なスタッフに恵まれている。現状を直視し、会員の声をまとめていきたい」と抱負を語る。06年に都中央会は創立50周年の節目を迎える。記念事業は来年2月1日に東京・丸の内での東京国際フォーラムで開催する予定で、1500人の出席を見込む。式典は中央会の存在を広くPRする場にもなる。「会として全力投球で取り組みたい」と意気込む。都中央会の会員数は2071(3月末現在)。ここ数年は微減で推移している。

金属板を御影石調に

(日刊工業新聞 05.6.9)

電化皮膜工業(神奈川県大和市、秋本政弘社長)は金属表面を御影石のような見栄えにする処理技術「BCミカゲ」を開発した。特許出願中で商標登録済み。今後、企業と連携し用途開発や製品化を進める。BCミカゲはアルミニウム表面処理で出る光沢のムラを利用してつくり出した。本来なら品質不良で発生を抑えるべきムラを、秋本社長が「何かに利用できないか」と研究。御影石調の表面を出す技術にした。通常の表面処理を施す前に、独自に調合した酸とアルカリの薬品で処理することでこうした色彩が出るようになった。アルミニウム以外にマグネシウムにも応用できる。

陽極酸化表面処理(アルマイト)は塗装やシールと違い、再利用する際はくり

剥離作業が不要。低コストでリサイクルできる利点がある。今後は金属製品を扱う企業に連携を呼びかけ、用途開発を急ぐ。

はがれにくいフッ素樹脂表面処理

(日刊工業新聞 05.6.17)

藤間精練(群馬県高崎市、藤間一夫社長)と本島商事(愛媛県西条市、石井利雄社長)は、メッキ技術を応用したはがれにくいフッ素樹脂表面処理技術「レゾナコート」を開発した。下地となるニッケルメッキ層の表面形状を工夫し、食い込み度合いを高めた。今月下旬にも受注を始める。この技術はニッケルメッキ層と、ニッケルとフッ素樹脂の複合被膜の二重構造。ニッケルメッキ層の表面を凸凹が多い形状にし、互いの密着度を高め、はがれにくくした。2年半前に本島商事が基礎技術を開発。量産化に向け、藤間 精練が薬剤やポンプ設備を工夫し、安定的にニッケルメッキ層に凸凹構造を成形する技術を確立した。今後は藤間が加工、本島が営業を担当する。藤間は8000万円を投じて本社工場内にレゾナコート専用ラインを構築した。小型製品の加工は隣接する日東電化工業(高崎市)に委託する。本島は7月1日付で本社を東京都中野区に移し、全国展開に乗り出す。フッ素樹脂の特性が生かせる分野として、排気管や廃液管、樹脂金型などへの採用を提案する。価格は一般的な無電解ニッケルメッキの約10倍だが、耐久性、作業効率の向上といった付加価値の高さをアピールし、06年4月期に7000万円、3年後に1億5000万円の売り上げを目指す。メッキを応用した既存技術は、ニッケルメッキ層に自然発生する微細孔

にフッ素樹脂を含浸させるもの。フライパンなどに使われるフッ素樹脂コーティングに比べ、母材との密着性は高いが、使用条件が過酷な工業製品には対応しきれていなかったという。

2層メッキ基板量産へ

(日刊工業新聞 05.6.17)

日鉱マテリアルズ(東京都港区、岡田昌徳社長)は、フレキシブルプリント配線板(FPC)に用いる2層メッキ基板の量産に乗り出す。サンプル出荷でユーザー評価が得られたことから、大型化を背景に成長する液晶表示装置(LCD)向け需要を獲得できると判断した。約35億円を投じ、05年度中に現在比6・7倍増の月産能力10万平方メートル体制を敷く。

日鉱マテリアルズは銅箔の生産拠点であるGNF工場(茨城県日立市)に2層メッキ基板の量産設備を新設する。メッキ、スパッタリング装置のほかクリーンルームを設置する計画で、05年末の稼働を予定している。

ウイルスを不活性化

(日刊工業新聞 05.6.17)

神戸製鋼所は16日、技術供与で事業展開している抗菌メッキ技術「KENIFINE(ケニファイン)」に、新型肺炎(SARS)ウイルスと同属のコロナウイルスに対する滅菌効果が確認されたと発表した。同ウイルス研究の第一人者である平野紀夫岩手大学農学部助教授と2年間、共同研究をした。「SARSウイルスにも効果があるとみられる」(平野助教授)としており、25日から米コロラドスプリングスで開かれるSARSの国際学会で発表する。

ケニファインは 01 年に実用化した特殊ニッケル合金による抗菌メッキ技術。ニッケルに有害性の低い非金属元素と還元性元素を加え、大気中で吸着した水膜に大量の抗菌性イオンを溶出させて滅菌する。硬度が高くメッキ後のプレス加工や溶接も可能。カビを防ぐ効果もあるため、食品・飲料機械関連など 11 社への技術供与実績がある。平野助教がマウス肝炎ウイルス(コロナウイルス)を使って行った殺ウイルス試験によると、同技術で処理した鋼板でつくった皿に入れたウイルス液を 37 度 C で 12 時間加温すると菌数が約 1000 分の 1 に減り、24 時間後には検出できず感染症がなくなった。

アルミ製文房具を製販

(日刊工業新聞 05.6.20)

電化皮膜工業(神奈川県大和市、秋本政弘社長)は、独自の金属表面処理技術を使ったアルミ製文房具の製造販売に乗り出す。第 1 弾として、光沢柄の名刺入れ、筆箱(写真)を発売。色調は赤、青、金など 8 種類。価格は名刺入れ、筆箱とも 600 円から。全種 3 万 個の限定生産で小売店やインターネットを通じて販売する。同社はアルミニウムやマグネシウムの表面処理を中心とした下請け加工業が中心で、最終製品の販売は今回が初めて。消費者の目に触れる文房具類などの製品を展開することで、独自の表面処理技術の普及を目指す。製品は独自のアルマイト処理技術を応用し、表面にまだら模様の光沢柄を出した。材料は日本軽金属から調達し、電化皮膜工業が表面処理や加工を施す。

三価クロムでバレルメッキ

(日刊工業新聞 05.6.28)

シルバーメッキ工業(荒川区、斉藤晴久社長)は、三価クロムメッキのバレルメッキの実用化に成功、9 月をめどに量産体制を整える。欧州特定有害物質規制(RoHS)に対応した。約 1500 万円を投じて 1500 リットル程度のバレルメッキ設備を導入する計画。治具に被メッキ物を引っ掛けて行うメッキ手法に比べて、小物部品のメッキで 30%以上のコストダウンが図れる。バレルメッキは回転する容器の中で行う電気メッキ。金属小物部品の大量メッキに適している。部品同士が接触することで導通を確保するものながら、容器の内側と外側で品質を安定させることが課題だった。シルバーメッキは容器の回転速度や液の調合、電流の調節などで品質を保つことを可能にした。携帯電話やデジタルカメラなどに使う小物部品の需要を取り込んでいく。

電機・電子業界では RoHS に対応して六価クロムから三価クロムに切り替える動きが加速しており、下請け企業にも波及している。ただ、三価クロムは六価クロムに比べて生産性が劣る上に価格が高いとされる。シルバーメッキは今後、量産効果などにより三価クロムのバレルメッキを「六価クロムと同じ値段」(斉藤社長)に落としていく考え。同社の 05 年 8 月期見通しは約 5 億 5000 万円。来年度は売上高 8%増を狙う。



暑中お見舞い申し上げます

<p>株式会社 都南ビーピー</p> <p>代表取締役 大村 功作</p> <p>本社 東京都目黒区上目黒4-5-1 工場 東京都目黒区上目黒2-45-12 〒153-0051 TEL03(3719)8221 FAX03(3760)9027</p>	<p>京王電化工業株式会社</p> <p>代表取締役 姫野 正弘</p> <p>〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘3-6-1 TEL0424(83)1900</p>
<p>株式会社 協和</p> <p>代表取締役社長 由田 猛</p> <p>本社 東京都豊島区東池袋1丁目7番12号(日産ビル) 〒170-0013 TEL03(3986)1591(代) FAX03(3988)8923 工場 高崎第1・高崎第2・川越・シンガポール マレーシア・タイ・中国</p>	<p>合資会社東亜鍍金工場</p> <p>代表社員 川上 洋一</p> <p>〒146-0093 東京都大田区矢口2丁目32番7号 TEL03(3759)3446(代)~8 FAX03(3759)3448</p>
<p>株式会社 入谷電鍍所</p> <p>代表取締役社長 間部健太郎</p> <p>〒110-0012 東京都台東区竜泉1丁目9番3号 TEL03(3875)6146(代) FAX03(3875)6149</p>	<p>八幡鍍金工業株式会社</p> <p>代表取締役 八幡 順一</p> <p>本社 東京都江戸川区平井5丁目20番9号 〒132-0035 TEL03(3617)7707 FAX03(3617)7709 篠崎工場 東京都江戸川区篠崎町3丁目33番11号 〒133-0061 TEL03(3670)2120 FAX03(3670)2062</p>
<p>木下電化工業株式会社</p> <p>代表取締役 木下 健次</p> <p>〒131-0043 東京都墨田区立花4-34-8 TEL03(3613)0646 FAX03(3613)0648</p>	<p>有限会社 朝日鍍金工場</p> <p>代表取締役 遠藤 清 専務取締役 遠藤清孝</p> <p>〒132-0025 東京都江戸川区松江4-20-11 TEL03(3653)3431 FAX03(3652)2225</p>
<p>有限会社 元井鍍金工場</p> <p>代表取締役 元井 民夫</p> <p>〒171-0044 東京都豊島区千早2丁目37番4号 TEL03(3973)0056(代) 03(3973)0057~8 FAX03(3974)7324</p>	<p>株式会社 清化学</p> <p>代表取締役 小橋 秀一</p> <p>〒174-0053 東京都板橋区清水町57-1 TEL03(3963)5225 FAX03(3963)5275</p>

暑中お見舞い申し上げます



株式会社 旭電化研究所

代表取締役 溝口 昌範

和光工場 埼玉県和光市白子2-28-8
〒351-0101 TEL048(461)2130 FAX048(466)5200
立川工場 東京都立川市一番町4-22-5
〒190-0033 TEL042(520)1772 042(520)1712

株式会社 歓 鍍 金

代表取締役 中澤 敏明

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-34-2
TEL03(3441)4910
FAX03(3441)4640

木村鍍金工業株式会社

代表取締役 木村 秀利

〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-12-3
TEL03(3491)7653
FAX03(3491)4074



株式会社 トーテック

代表取締役 小谷野 英勝

本 社 東京都目黒区下目黒2丁目13番7号
〒153-0064 TEL03(3493)0231 FAX03(3779)5296
千葉事業所 千葉県香取郡東庄町宮野台1-50 東庄工業団地
〒289-0623 TEL0478(87)1120 FAX0478(87)1018

藤田鍍金工業株式会社

代表取締役 藤田 直人

〒140-0004 東京都品川区南品川4-17-16
TEL03(3474)3563
FAX03(3474)3548

有限会社 伊豆鍍金工業所

取締役 原 清一

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-5-1
TEL03(3493)0308(代)
FAX03(3491)8795

有限会社大森広尾鍍金工場

専務取締役 志田 和陽

〒143-0014 東京都大田区大森中1丁目11番5号
TEL03(3761)4946
FAX03(3761)4991

東京都鍍金工業組合 大田支部

支 部 長 佐藤 富幸
副支部長 葛西 康二
副支部長 金子 俊明
副支部長 池田 純一
役 員 一同

〒142-0064 城南連合支部事務局 品川区小山4-2-4
TEL03(3785)0078 FAX03(3788)1678

新日東電化協業組合

理事長 鈴木 徳一

〒143-0003 東京都大田区京浜島2-2-1
TEL03(3790)2321
FAX03(3790)2327

URL:www.threeweb.ad.jp/~snd

株式会社 大崎金属

代表取締役 吉川 進

〒144-0033 東京都大田区東糀谷6-3-1
TEL03(3744)8200
FAX03(3745)4841



暑中お見舞い申し上げます

<p>平和工業株式会社</p> <p>代表取締役 内藤 雅文</p> <p>本社 東京都大田区京浜島2丁目2番4号 〒143-0003 TEL03(3790)1031(代) FAX03(3790)2828</p>	<p>大森クローム工業株式会社</p> <p>取締役社長 小口順一郎</p> <p>本社工場 東京都大田区大森西1-1-3 〒143-0015 TEL03(3761)3101 FAX03(3761)3040 URL:http://www.ohmori-crco.jp</p>
<p>株式会社 篠根鍍金</p> <p>代表取締役 篠根 健一</p> <p>本社 東京都荒川区東尾久2丁目9番1号 〒116-0012 TEL&FAX03(3895)1759 工場 埼玉県草加市稲荷2丁目12番6号 〒340-0003 TEL0489(31)7675 FAX0489(31)2407</p>	<p>株式会社 山 晴</p> <p>代表取締役 今泉 好隆</p> <p>〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-37-5 TEL03(3801)2012 FAX03(3801)2190</p>
<p>有限会社 平野メッキ工場</p> <p>代表取締役 平野普三雄</p> <p>〒116-0012 東京都荒川区東尾久2-3-7 TEL03(3895)5902 FAX03(3809)1966 三郷工場 埼玉県三郷市彦江1-71-1 〒341-0058 TEL048(953)2301 FAX048(953)2302</p>	<p>野上化学工業株式会社</p> <p>野上 敬 野上 悟</p> <p>〒114-0035 東京都北区田端新町1-11-13 TEL03(3894)5195 FAX03(3800)5195 東京工場・名古屋工場・羽生工場</p>
<p>有限会社 上原メッキ工業</p> <p>代表取締役 上原 裕司</p> <p>〒334-0063 埼玉県川口市東本郷764-8 TEL048-282-1590 FAX048-282-3567 E-mail:hirosiu@muh.biglobe.ne.jp</p>	<p>株式会社 木下鍍金工場</p> <p>代表取締役 木下 好雄</p> <p>〒111-0013 東京都台東区浅草橋2-28-8 TEL03(3851)4810 FAX03(3866)4001</p>
<p>有限会社富士友工業所 =貴金属メッキ各種=</p> <p>代表取締役 下平 誠</p> <p>〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目33番10号 TEL03(3872)4781 FAX03(3871)5959</p>	<p>東京都鍍金工業組合 中央支部 役員一同</p> <p>〒111-0013 東京都台東区浅草橋2-28-8 TEL03(3851)4810(株木下鍍金工場) FAX03(3866)4001</p>

暑中お見舞い申し上げます



<p>東京都鍍金工業組合 足立支部</p> <p>常任理事 小澤 栄男 支 部 長 永田 一雄 副支部長 細井 碧 副支部長 石川 和男 副支部長 橋本 英雄 副支部長 磯村 博明</p> <p>〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1(株梅田鍍金工業所内) TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530</p>	<p>株式会社 梅田鍍金工業所</p> <p>代表取締役 永田 一雄</p> <p>〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1 TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530 k-nagata@courante.plala.or.jp</p>
<p>株式会社八神化学工業所</p> <p>代表取締役社長 永田 吉輝</p> <p>〒123-0856 東京都足立区本木西町8-25 TEL03(3890)4236 FAX03(3890)4238</p>	<p>有限会社 大出電鍍工業所</p> <p>代表取締役 細井 碧</p> <p>〒123-0852 東京都足立区関原2-1-5 TEL03(3849)1496 FAX03(3849)1497</p>
<p>太田鍍金工業株式会社</p> <p>代表取締役 太田 寿一</p> <p>〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-10-17 TEL03(3692)4560 FAX03(3693)0020</p>	<p>神谷電化工業株式会社</p> <p>代表取締役 神谷 博行</p> <p>〒124-0012 東京都葛飾区立石2-18-8 TEL03(3695)1304 FAX03(3695)1346</p>
<p>葛飾硬質クローム株式会社</p> <p>代表取締役 広根 淳一</p> <p>〒124-0003 東京都葛飾区お花茶屋3-24-14 TEL03(3602)6561 FAX03(3602)6563</p>	<p>大日工業株式会社</p> <p>代表取締役 小倉 攻一</p> <p>〒124-0011 東京都葛飾区四つ木5-16-11 TEL03(3691)9501 FAX03(3691)9504</p>
<p>株式会社 ヒキフネ 株式会社 ヒキフネ技研</p> <p>代表取締役 石川輝夫 専務取締役 石川英孝</p> <p>〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-4-12 TEL03(3696)1981 FAX03(3696)4511 http://www.hikifune.com</p>	<p>有限会社 亜鉛鍍金工業西谷</p> <p>回転アエンメッキ専門</p> <p>代表取締役 西谷 幸一</p> <p>〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5丁目26番6号 TEL03(3697)1484 FAX03(3697)3593</p>



暑中お見舞い申し上げます

<p>東京都鍍金工業組合 向島支部 支 部 長 石田 昌久 副支部長 仲俣 雅行 副支部長 向坪 昭 副支部長 大場 章司 副支部長 深田 稔 役 員 役員 一同</p> <p>〒131-0043 東京都墨田区立花5-17-17 TEL03(3617)5779 FAX03(3614)5653</p>	<p>株式会社 進光舎鍍金</p> <p>代表取締役 池田 敏則</p> <p>〒131-0041 東京都墨田区八広4-42-7 TEL03(3612)6975 FAX03(3612)6945</p>
<p>新東 株式会社 代表取締役 石田 昌久</p> <p>〒131-0043 東京都墨田区立花5-8-2 TEL03(3611)8251 FAX03(3617)7102 Eメール:Shinto@mekki.co.jp URL:http://www.mekki.co.jp</p>	<p>東京都鍍金工業組合 本所支部 支 部 長 山田英佐夫 副支部長 岡本 博司 副支部長 在間 茂夫 副支部長 酒巻 正明 副支部長 横山 昇 副支部長 安西健一郎</p> <p>〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9(株東電工舎) TEL03(3622)8111 FAX03(3622)8107</p>
<p>有限会社半田鍍金工業所</p> <p>代表取締役 半田 實</p> <p>〒189-0011 東京都東村山市恩多町5-43-14 TEL042(393)0960 FAX042(398)1977</p>	<p>東京都鍍金工業組合 西部支部</p> <p>支 部 長 西原敬一 副支部長 柴 太 役 員 一同</p> <p>〒184-0004 東京都小金井市本町1-7-1 SS ビル TEL042(384)4718 FAX042(382)8195</p>
<p>高砂電鍍工業株式会社</p> <p>代表取締役 高村 昌利</p> <p>〒187-0032 東京都小平市小川町2-1972 TEL042(341)3380 FAX042(343)4582 URL:http://www.takasagodento.com</p>	<p>ニシハラ理工株式会社 代表取締役 西原 敬一</p> <p>本社・武蔵村山工場 東京都武蔵村山市伊奈平2-1-1 〒208-0023 TEL042(560)4011 FAX042(560)4044 狭山工場 埼玉県入間市狭山ヶ原108 〒358-0032 TEL042(934)6116 FAX042(934)4640 佐賀工場 佐賀県三養基郡上峰町堤2100-34 〒849-0124 TEL0952(53)1215 FAX0952(53)1210</p>
<p>株式会社精密電化工業所</p> <p>代表取締役社長 大内 源司 代表取締役専務 西村 福司</p> <p>〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-2-27 TEL042(541)2250 FAX042(541)0894</p>	<p> 株式会社 杉並化学</p> <p>代表取締役 角田 洋久</p> <p>〒196-0021 東京都昭島市武蔵野2-9-9 TEL042(544)1578 FAX042(544)3415</p>

暑中お見舞い申し上げます



東京都鍍金工業組合 亜鉛めっき部会

会 長 菊池 忠男
副会長 遠藤 清
副会長 半田 實
副会長 中村 昭人
副会長 内山 昇
役員 一同

〒113-0034 東京都文京区湯島1-11-10
TEL03(3814)5621 FAX03(3816)6166

株式会社 吉崎メッキ化工所

代表取締役 吉崎 一紘

〒190-0033 東京都立川市一番町4-73-3

TEL 042(531)1242

FAX 042(531)6734

<http://www.yoshizaki-mekki.co.jp>

info@yoshizaki-mekki.co.jp

■亜鉛部会総会

全役員留任を決める

東京都鍍金工業組合亜鉛めっき部会(菊池忠男会長)は6月21日(火)午後6時30分から上野池之端の伊豆榮で会員19名が出席して総会を開催した。

半田實副会長が司会をつとめ、会員物故者に黙祷を捧げたあと「みなさんの会社でも6価クロメートから3価に移行してきているのではないかと思います。私のところも半分以上が3価になり、品物が増えて残業している状態だが、中国へ行った品物が3価ができずに戻ってきているのではないかと思います。後ほど情報交換をお願いしたい」と開会の挨拶をした。

菊池会長は「会員多数のご出席を頂き感謝申し上げます。司会者から話があったように、3価クロメートに移行して色々な技術革新が行われているように感じる。亜鉛部会の発足当初は200社であったが、現在45社、いま3価クロメートへの移行や薬品開発など過渡期にあると思う。3価は6価のようにならないのは事実であり、環境負荷を考えると、6価で鉄のさびを防いだ方が環境にやさしいという話があり、ある学者にその話をぶつけたところ、そういうことは絶対あり得ない、3価で進んでいくということであった。去年は3価クロメートの研修を兼ねた親睦旅行を計画したが、私の不徳の致すところで実施できなかった。今年は必ず実行したいと思う。3価クロメートは色々な薬品メーカーがあり、色々な方法でやっている。お互いに情報交換してみなさんにメリ

ットのあ
る亜鉛部
会として
いきたい。
ご協力をお
願い申し上
げると挨拶
した。

議長は慣例により野上榮



一前会長を選出して議事に入った。平成16年度事業報告を内山昇副会長、会計報告を海野吉正会計、監査報告を西谷幸一監査が行い承認された。続いて平成17年度事業計画案並びに収支予算案が原案どおり承認可決された。役員改選では葛西康二幹事から役員会での選考経過を説明するとともに、菊池会長をはじめ全役員の留任について発表し、拍手で承認された。最後に遠藤清副会長が閉会の辞を述べて総会を終了した。

引続き二部懇親会に移り、再選された菊池会長は「総会が野上議長のもとにスムーズに終了したことをお礼申し上げる。先ほども申し上げたが、今年は是非研修旅行を行い、参加して良かったといわれるものになりたい。これから亜鉛部会を盛り上げるためみなさんの協力をお願い申し上げます」と挨拶した。来賓として川上洋一副理事長が「現在水生生物保全のため亜鉛規制強化の動きがあるが、鉛規制強化の二の舞にならないよう全鍍連がデータを集めて関係省庁に要望を行っている。みなさんの協力をお願いしたい」と挨拶。太田寿一元会長の音頭で乾杯した。懇親会は葛西幹事の中締めまでなごやかに進められた。

亜鉛めっき部会 会員募集案内

東京都鍍金工業組合
亜鉛めっき部会
会長 菊池 忠男

平素は、亜鉛めっき部会の活動について、何かとご支援を賜わりありがとうございます。

当部会は、当初、会員203社にのぼり活発な活動を展開していました。

しかし、現在、会員数が激減し低調の一途を辿っています。そのことから、会員増強の必要性を強く感じている今日この頃です。

今後、会員を増強し、現在よりも、一層活発な活動を展開してまいりたいと役員一同考えておりますので、当部会にご関心をお持ちの方、または、積極的に参加して亜鉛めっき事業のために活動したい方、是非お申込みをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

当部会は、総会、役員会、講習会、研修会(工場見学)、納涼会等を、その都度、会員のご意見を伺いながら、企画・立案し、交流を重ね、計画的に活動しています。会費は月額1,000円で、当部会の活動費にさせていただきます。

当部会に入会していただける方は、入会申込書を送付致しますので、事務局 亜鉛めっき部会担当 近藤03(3814)5621まで、ご連絡願います。

※問い合わせ・申込み先

東京都鍍金工業組合
事務局 近藤 寿雄

TEL03-3814-5621

Fax03-3816-6166

常木鍍金工業(株) 中国・上海にめっき工場建設

常木鍍金工業(株)(城北支部・常木茂宏社長)は中国・上海市に全額出資のグループ会社・茂英電子(上海)有限公司を設立、既に5月13日に地鎮祭を行い、今年11月竣工予定、12月の本格稼働を目指してめっき工場を建設している。日本から中国へ進出している製造業は多いが、上海への独資でのめっき工場進出はなく国内初であるという。進出目的の一環として同社の若い従業員(110名、平均年齢20歳代)に、広く海外での活動を体験させたいという。

上海市金山区に建設中の工場は、敷地18,000平方メートル、工場1階建5,420平方メートル、事務所棟3階建2,500平方メートル。

中国では、自動車部品、携帯電話、DVD、CD等の電子機器部品、精密光学機器部品の需要に対応する。めっきは、銅、ニッケル、無電解ニッケル、金、銀、スズ-ニッケル、無電解ニッケル-ボロン-金(同社特許)、潤滑テフロンめっきを中心として、現地のめっき業者が処理出来ないような多品種少量物、高度な技術を必要とするニーズに対応する。

日本より厳しい排水規制に対応して、日量100トンの処理能力を有する排水処理設備を

完備する。また、いま国内で進められている3価クロメート、鉛フリー化並びにRoHS規制にも対応する。総投資額は5億4千万円で、内訳は土地代6000万円(50年権利)、建物代2億円、設備費2億円、排水処理施設5,000万円、その他となっている。

上海は排水規制が格別に厳しく独資でのめっき工場進出は難しいといわれ、今回同社の進出が初めてとなる。操業後中国政府からハイテク企業と認められると税制面の優遇措置が受けられることも視野に入れている。

当初は日本人スタッフ4名と現地で60名を採用してスタート、年間売上高6億円を目指す。すでに国内での取引先との交渉が進んでおり、現地めっき工場が出来ない高付加価値の機能めっきを順次増やし、3年後位には第二期増設工事を計画、需要の拡大を目指している。また、上海は大都市で優秀な技術者が多く、公立の技術学校も開校されていることから将来とも人材確保面は有望である。特に福利厚生面に力を入れ、社員の家族が入院したら、医療費を負担することや保育所を斡旋するなどの、安心して働ける環境作りを行い、従業員の定着率向上、他社との差別化を図る。



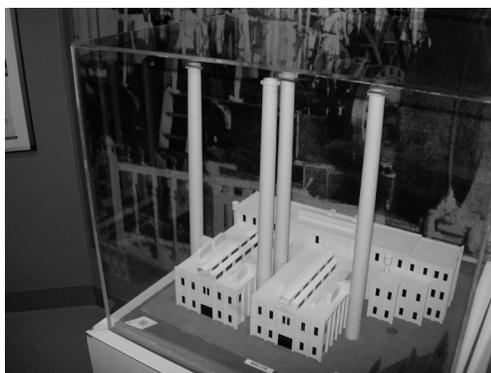
足立支部の巻 「おばけ煙突」

40代半ば以上の読者は、昭和39年に姿を消した「おばけ煙突」のことを知っている方もいらっしゃると思いますが、今回の支部シリーズでは、知っている方には懐かしい、そうでない方にはそれなりに新鮮？な「おばけ煙突」のことをとりあげさせていただきます。

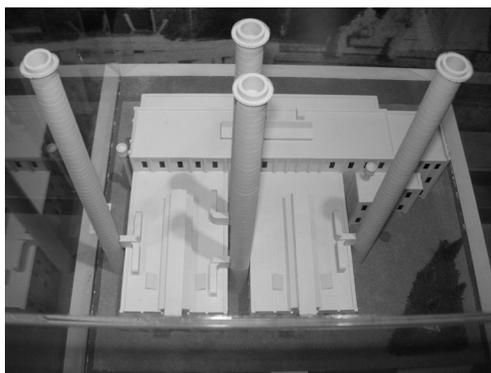
「おばけ煙突」とは、大正15年、千住火力発電所に建設された高さ83mの4本の煙突のニックネームで、高度成長期の日本経済を支え、また、下町のシンボルとして親しまれていました。昭和28年には上原謙・田中絹代主演で「煙突の見える場所」という映画の舞台にもなりました。さて、ここでなぜ「おばけ煙突」と呼ばれていたのか、本題に入りましょう。

まず、一つ目の名前の由来は、おばけのようにいつ煙が出るかわからなく、しかも地元の葬儀の時にモクモクと煙をはいたので「おばけ煙突」という名が付いたという説、もう一つはいちばん良く知られている説ですが、見る方向により1本、2本、3本、4本と煙突の本数が変化するというものです。特に常磐線に乗ると、三河島から北千住の間はこの「おばけ煙突」を中心に半円を描いて走っていたので、4本～3本～2本～1本に見えたそうです。では、なぜこのように本数が変化して見えたのでしょうか？ 写真1・2(東京電力・テプコ浅草館にある模型)を見ていただければおわかりと思いますが、配列が極端な菱形だったため、見る方向によって重なり合って1～4本に見えたのです。

この「おばけ煙突」は、前述のように昭和39年に解体されましたが、地元住民から多くの惜しむ声が寄せられ、その一部が「おばけ煙突」のすぐ横にある足立区立元宿小学校(筆者の母校・今年3月に近隣の千寿



(写真1)



(写真2)

第三小学校との統合により廃校)に滑り台として保存されたのでした。昨年10月、廃校を間近に控えた元宿小学校は創立50周年記念という事で、記念誌を発行しました。「おばけ煙突」にまつわる事もたくさん記述があったので、この原稿の執筆にあたり資料の提供を記念誌に求め、旧元宿小学校校長・統廃合により新設された千寿双葉



(校庭の滑り台)

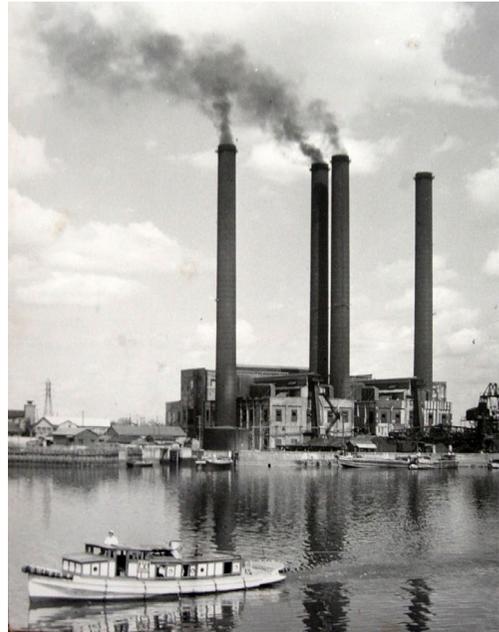


(井上校長)

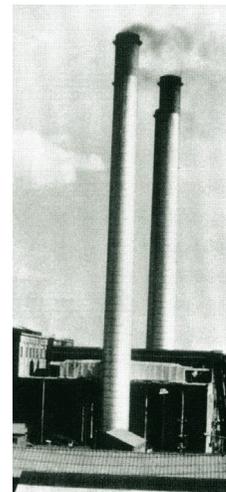
小学校校長でもある井上茂校長に引用の許可をうかがったところ、快諾してくださり、なおかつ、御自身の子供の頃の「おばけ煙突」の思い出も教えてくださいました。「小学生の頃、遠足で常磐線に乗って、引率の先生にあれがおばけ煙突だよと教えられ、煙突の本数が変化するのを見て不思議だなあと感じたものでした。そんな私が今、おばけ煙突の滑り台がある学校に赴任している事を何かの縁と感じています。」

千寿双葉小学校は平成18年12月まで旧元宿小学校の校舎で学んでいますが、その後は千寿第三小学校の跡地に建設中の新校舎に移る予定です。現在はまだ、滑り台は旧元宿小学校の校庭にあります。新校舎移転後の処遇は未定なのです・・・。

(広報委員:小島一浩)



(我が家にあるおばけ煙突の写真)



(2本に見えるおばけ煙突)

取材協力

東京電力

東京電力 テプコ浅草館

足立区立元宿小学校

足立区立千寿双葉小学校

足立区立千寿双葉小学校 井上茂校長

石川進造個展「旅のスケッチ万華鏡」

石川進造氏(葛飾支部・(株)ヒキフネ会長)が5月10日から15日まで荻窪の術芸館で第1回個展「旅のスケッチ万華鏡」を開いた。作品は水彩画で、カンボジアのアンコールワットなど東南アジアを旅した時に描いた作品を中心として出品、応対に当る石川氏は、組合関係者をはじめ来観された多くの方々から賞賛の言葉を浴びていた。

石川氏と絵画との関係については「私は高校時代まで油絵を描いていましたが、仕事についてからは、絵を描くゆとりと機会を失っていました。2002年に“絵を描きたい貴方へ”(永沢まこと著)に出会い、カルチュア教室で永沢先生のご指導を受けました。それからは“目からうろこ”の例えのように、絵を描くことが楽しく充実した日々を過ごしております。ゆうらめアートスクールの小野寺先生からも、励ましとご懇切な指導を頂き、毎年銀座で開かれる「ゆうらめグループ展」に3回の出品をさせていただきました。今回の「旅スケッチ万華鏡」のテーマである東南アジアの旅行は、水野哲行さん(写真家・東南アジア資料ページ主宰)のご厚意により実現したものです。絵をかくことは孤独な作業のようですが、絵を通じて、大勢の若い人たちと知り合え、考えもしなかった新しい世界が見えて参りました。充分すぎるほど年齢(70)を重ね、残り時間も少なくなりましたが、これからの5年間を一区切りと考え、有意義な時間を送りたいと願っております。本日は本当に有り難うございました」(挨拶状)と述べている。また、奥様の路子様が玄人肌の見事な和紙人形を展示され、石川氏の個展に花を添えていた。なお、第2回石川進造個展「旅スケッチ万華鏡2」が明年1月16日～22日銀座渋谷画廊で予定されている。



つ
ま
恋
坂

たまごっち

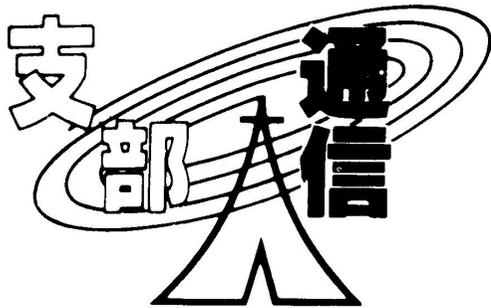


藤田 直人(品川支部)

皆さん『たまごっち』をご存じだろうか。昔 1996 年の暮れ頃から世に出て、「あっ」という間にブームとなり、「あっ」という間に消えてしまったおもちゃである。実際には 2 年ほどの間に続々と新種が発売になり製造販売していた会社はぼろもうけと思いきや作りすぎて在庫過多により倒産寸前までおちいったという話を聞いた。

その『たまごっち』が『たまごっち+(プラス)』としてよみがえり、さらには『祝ケータイかいつー!たまごっち+』というのが発売され、子供たちに人気で売れているのだそうで、前回の失敗に懲りたのか数量限定で発売しているため、なかなか手に入らない。小さな町のおもちゃ屋には入荷もないそうで、この方式は売れ筋のおもちゃに多いそうで近所のおもちゃ屋はついに廃業だそうである。ちなみに私も娘にせがまれ娘の欲しがるデザインの『それ』をインターネットオークションで苦労して定価以上で買わされた。後で調べたら、発売前にメーカーのホームページから予約すれば発売前なら定価で予約できたようであるが欲しがったものはその後もオークションを見ると値上がりしているのであの時買っておいてよかったと思っている。なかなかうまくできていて、『でかたまごっち』なるものがゲームセンターや大型玩具店などにあり、そこで無料のゲームをして、勝つと通信(赤外線?)で自分の『たまごっち』にポイントが貰えるのである。娘はそれがやりたくて、休みになると近所の大型スーパーへ行きたがる。今度『おうちのでかたまごっち』なるものも発売されるそうである。また、友達と通信により品物(アイテム)交換や適齢期には恋愛結婚もあるようである。基本的にオスが多く、メスを作るためにはお世話が大変で手がかかる。そこで親も動員される。学校には持って行けないが、学校へ行っている間もそれなりの世話が必要で、親は振り回されている。世話役に振り回されている内に親もはまり、さらに買い足す親もいるようである。

ここまで書くと私も「はまっている」と思われるかもしれないが断じて「まだ」(今のところ)はまっていない。



■葛飾支部

第 35 回ゴルフコンペ

葛飾支部は第 35 回ゴルフコンペを、平成 17 年 6 月 5 日(日)、茨城県那珂郡のマナゴルフクラブで参加者 19 名により開催した。

当日は時折陽の差す曇り空の中、余り暑さを感じない、最高のゴルフ日和になった。

プレー終了後のパーティ、太田会長の挨拶のあと、賞品の授与が行われ、1 位のメロン 6 個入りケースを始め果物尽くしの賞品に参加者も大喜び。午後 5 時 30 分解散。順位は次の通り。

優勝	矢野尚武	44	41	6	79
準優勝	関根征子	45	46	12	79
3 位	太田良江	46	52	19	79
7 位	小倉攻一	39	46	2	83
B. B	関根利定	55	54	12	97

■葛飾支部

総会開催

新支部長に小倉攻一氏

葛飾支部(神谷博行支部長)は 5 月 17 日(火)午後 6 時から葛飾区勤労福祉会館で通常総会を開催した。

小倉攻一副支部長の司会により、西谷幸一副支部長の開会の辞、神谷支部長の挨拶のあと、議長に太田亶一顧問?を選出して議事に入った。

平成 16 年度事業報告を広根淳一副支部長、会計決算報告を伊藤精二副支部長、監査報告を山田鎮雄監事が行い、承認された。続いて、平成 17 年度事業計画を広根副支部長、収支予算案を岩佐博巳会計が行い原案通り承認された。役員改選では次の通り新役員案が発表され、満場の拍手で承認された。

顧問	太田 亶一、石川 進造
	菊池 忠男、神谷 博行
相談役	山田平八郎、安良岡一晃
	岡田 亘弘、高須 国之
	関根 利定、鶴尾 安信
支部長	小倉 攻一
副支部長	西谷 幸一、伊藤 精二
	広根 淳一、佐藤 秀昭
	中田 充彦、柴田 徹



会 計 岩佐 博巳
監 事 関根 利定、山田 鎮雄
技術環境 和気 晴幸、狐塚 保之
委員 近藤 義次、吉村 寛
金子 雄二
総務委員 鈴木 侑、松岡 昇造
山田 鎮雄、太田 幸一

小倉新支部長の就任挨拶のあと、佐藤副支部長の閉会の辞をもって総会を終了した。引続き二部懇親会に移り、中田副支部長の司会により小倉新支部長の挨拶のあと、退任役員への感謝状贈呈(写真)を行った。



来賓として大村功作支部長の挨拶の後、石川進造顧問の音頭で乾杯、なごやかに懇親の宴が進められた。

■中央支部

6 月例会

中央支部(木下好雄支部長)は 6 月 24 日(金)午後 6 時から寿区民館で支部員 26 名が出席して例会を開催、職業能力開発総合大学校造形工学科助教授・坪田実氏の「塗装について」講演を聞いた。

はじめに新井富保副支部長の司会により、木下支部長は「平成 17 年度第 1 回例会にお忙しい中を多数の参加を頂き感謝申し上げます。本日は訓練校の神戸教頭より紹介を頂いて講師に坪田先生をお招きした。先生の立場と我々職人の立場には若干の差があるかもしれないが、我々の悩みを聞いて頂いてご指導を頂きたい」と開会の挨拶。

講演に入り、坪田講師は、塗料の種類、どのようにして膜になるかなどを講演し、活発な質疑応答を行った。以下、概要を紹介する

1. 塗料の種類、どのようにして膜になるのか

塗料には沢山の種類があるが、乾燥して塗膜になればチョコとクッキーの 2 種類し



(坪田助教授)

かない。この 2 種類の塗膜がどのように形成されるか、どのような違いがあるのかを学習しよう。

1.1 はじめに

流動、固化するように塗料は設計されており、そのための基本組成は各種成分が適切に混合、複合化されている。また、塗料には顔料(色彩を付与する固体粒子)を含まない透明塗料(ワニス、クリヤ)と顔料を分散させた有色塗料(エナメル)とがあり、塗料の約 90%はエナメルとして用いられている。さらに、塗料はその形態によって、溶液形、分散形および粉体に大別できる。

1.2 塗料の形態

(1)溶液形

塗膜形成主要素が溶媒中に溶解している塗料を総称して溶液形とよぶ。有機溶剤可溶タイプと、水系溶媒中でポリマーがイオンとなって溶けている水溶性タイプ、さらにポリマーに比べて分子量の小さいプレポリマーやオリゴマーがモノマー(単量体)に溶けており、すべての成分が化学反応して橋かけ塗膜を形成する無溶剤タイプに分類することができる。橋かけ塗膜を形成する無溶剤塗料には不飽和ポリエステル樹脂や紫外線、電子線硬化塗料が当てはまる。

一方、加熱により流動性を保っているホットメルト形の無溶剤塗料がある。この塗料は前述の橋かけ塗膜(熱硬化性塗膜)と相対するラッカー塗膜(熱可塑性塗膜)を形成する。道路中央の白、黄線あるいは歩道を表す路面表示用塗料(トラフィックペイント)やダンボールの接着剤に代表される。

(2)分散形

エマルジョン重合でポリマーとなるエマルジョンタイプと、脂肪族炭化水素系溶媒中にポリマー粒子が分散しているNADタイプに大別できる。いずれもポリマーが粒子として溶媒中に分散しているから、ポリマーの分子量がどんなに大きくても低粘度で、塗装時の固形分を高めることができる。通常は塗装しやすいように増粘剤が添加されている。

エマルジョン塗料は、水に溶けないポリマー粒子が界面活性剤で覆われている水中油滴形(W/O, Oil in Water)になっており、牛乳・マヨネーズも O/W 形である。一方、漆はウルシオールの中に水可溶性物質であるゴム質が粒子として分散している油中水滴形(W/O)エマルジョンであり、バター・マーガリンも同じタイプである。

NADは Non Aqueous Dispersion の略で、非水分散と訳せる。大気汚染を防ぐ見地から芳香族炭化水素系溶剤の排出を抑え

るために開発された塗料でAND形塗料とよばれる。ポリマー粒子特有の流動性や物性を利用する目的で、溶液形塗料に混合して用いることも多い。ポリマー粒子の外側にあるヒゲの部分のみが溶媒である脂肪族炭化水素に溶解して、分散相を安定に保っている。

分散形塗料の塗膜形成は、粒子同士の融着による。小さい粒子が接近するとすき間ができ、毛細管の作用で溶媒が抜けやすくなり、2個の粒子が1個の粒子になるようにして、次々に融合を繰り返しながらハチの巣のように造膜していく。

塗料状態ではポリマー粒子の大きさが可視光の波長に比べて大きいから白く見えるが、塗膜になるとポリマーは分子オーダーになり、もはや光を散乱することなく透明になる。

(3)粉体

粉体塗料は有機溶剤や水を使用しない固形分 100%の粉末状塗料で、静電吹付けまたは流動浸せき法により被塗物に塗装し、それを焼き付けることにより流動状態を経て連続塗膜を形成させる。粉体塗料の約70%は熱硬化性のエポキシ樹脂系である。エポキシ樹脂の硬化剤である酸無水物は、あらかじめ顔料と同様にエポキシ樹脂中に練入されており、粉体が熔融流動してから反応するように設計されている。

1.3 チョコレート(ラッカー)タイプとクッキー(橋かけ)タイプ

チョコレートは加熱するとどろどろの液状になるが、クッキーは流動せず、どんどん加熱温度を上げると焦げついてしまう。塗料には沢山の種類があるが、いったん乾燥して塗膜になると、それらの熱的特性はチョコレートとクッキーの2タイプしかなくなる。この2タイプの大きな相違点は塗料(液体)が乾燥硬化して固体になる塗膜形成過程にある。チョコタイプの塗料ならば、

塗膜になる主成分が乾燥前後で化学変化をしない。すなわち、塗膜主成分であるポリマーの分子量が不変である。乾燥過程で溶剤が蒸発するのみで、その塗膜は溶剤で再び溶ける。チョコタイプに属する塗料は通常、ラッカーと言われるもので、硝化綿(ニトロセルロース)、アクリルラッカーが典型的な例である。接着剤では自転車タイヤのパンク修理に使うゴムのりがチョコタイプである。

一方、クッキータイプの塗料は塗膜形成過程において、塗膜になる主成分が化学変化する。この化学変化を橋かけ反応と呼ぶことから、橋かけタイプの塗料と表現する。乾燥中に塗膜主成分がお互いに化学結合してゲル化してゆき、分子量が無限大になる。それゆえ、乾燥後の塗膜は溶剤に浸せきしても溶けない。クッキータイプの塗料は自動車やスチール家具に用いられる焼付け塗料(溶液形のメラミン樹脂系や粉体のエポキシ、ポリエステル系)と常温乾燥塗料(油性塗料や2液形ポリウレタン、2液形エポキシ樹脂塗料など)に大別できる。接着剤ではA,Bの2つのチューブに入っているエポキシ樹脂系がクッキータイプである。

以上述べたように、固化した塗膜にはチョコタイプとクッキータイプの2種類しかない。高分子化学の分野ではチョコタイプは熱可塑性、クッキータイプは熱硬化性と呼んでいる。熱硬化性樹脂と書いてあると、よくこんな勘違いをされる方がいる。加熱すると固まるポリマーだと。プラスチック成型で、粉末のフェノール樹脂を金型に入れて加熱するとクッキータイプのプラスチックに成形できる。粉体塗料はこの成形法と似ているが、チョコタイプの塗膜にすることもできる。チョコとクッキー、熱可塑性と熱硬化性塗膜の違いはヤング率(弾性率で硬さだと理解しよう)の温度依存性にあると理解してほしい。室温付近の硬さが

両塗膜ともほぼ同じであっても、加熱するとチョコタイプの塗膜は流動するから硬さの測定が困難になる。クッキータイプも加熱すると軟らかくなり、ここまでは両タイプとも差異はないが、高温側の挙動が明らかに異なる。クッキータイプは流動せず、反対に温度とともに硬くなる。車のタイヤが走行中に高温になるが、決して流動したり、ぐったりすることはない。反対に硬くなるのである。この辺までくると、なんだか相当なことが理解できそうである。

2. どのように塗るか

薄く丈夫な膜にするため、厚塗りをしない。薄く重ね塗りをする。適切な乾燥条件が必要である。

講演後の質疑応答では、めっき工場は腐食雰囲気が強くと鉄骨等が錆びやすいので良い塗料があったら教えてほしいと質問、重防食用ジングリッジプライマーの使用例を示しながら、一度錆びが発生すると局部電池が出来ており、容易に錆を防ぐことは難しいなど説明を頂いた。

講習会終了後、例会に移り、はじめに次の通り今期の役員を紹介した。

支 部 長 木下 好雄
副支部長 新井 富保 斉藤 功
会 計 横井 紀一 堀江 清
会計監査 東松 国雄 内山 弘一
総 務 石井 徹夫 鈴木 保利
中村 建輝

部 長

1部 鈴木宏政 2部 古屋昌彦
3部 堀江 清 4部 野村孝司
5部 岡田栄治 6部 堀米 清

続いて、石井徹夫技能教育委員が全国めっき技術コンクールについて案内、木下支部長が秋の旅行会(10月1日~2日/熱海さくらや旅館)を説明、大勢の参加をお願いし、例会を終了した。

東京都中小企業の景況(平成17年7月調査) 東京都産業労働局商工部

◎都内中小企業の業況 DI は、変化に乏しいながら堅調な動きとなった。前年同月比売上高 DI は、製造業と小売業がいずれも悪化。サービス業はわずかに改善した。今後3ヶ月の見通し DI は前月比5ポイント増加し、先行きに対する期待感をさらに高めている。業種別には、4業種とも前月水準を上回り、明るさを増している。

○6月の都内中小企業の業況 DI は▲32(前月▲33)と前月比1ポイント増加し、変化に乏しいながら堅調な動きとなった。業種別にみると、製造業は▲28(同▲34)と前月比6ポイント増加し、前月の悪化から改善となった。一方、サービス業は▲23(同▲20)と前月比3ポイント減少し、過去2年間で最も高かった前月の水準からわずかに後退した。なお、卸売業と小売業は、ともにほぼ横ばいに推移した。

○前年同月比の売上高 DI は▲36(前月▲34)と前月比2ポイント減少し、連続のわずかな悪化となった。業種別には、製造業が前月比2ポイント減で連続して悪化。小売業は前月比7ポイント減で5ヶ月ぶりに悪化した。一方、サービス業は、わずかに改善した。

○当月と比べた今後3ヶ月(7~9月)の業況見通し DI は▲14(前月▲19)と前月比5ポイント増加し、先行きへの期待感をさらに高めている。業種別には、製造業は▲13(前月▲14)とほぼ横ばいであったが、卸売業、小売業、サービス業の3業種は4~8ポイント増加し、先行きに対する明るさを増している。

編集後記

掛軸、屏風、陶器など自慢のお宝を専門家に鑑定してもらう「開運なんでも鑑定団」(テレビ東京 毎週火曜夜)という人気番組がある。出場者のお宝は古美術商や知人、友人から価値あるものとしてかなりの高額で手に入れるケースが多く、本人もそれに近い価格を提示して専門家の評価を仰ぐ。中にはお宝が本物で本人の評価額を上回る金額が示される場合もあり、視聴者はみなさんすごいお宝を持っているんだなあと感じさせられる。しかし、そうしたケースより、お宝が贋物で二束三文の価値しかないという鑑定が下されて、本人も驚きや落胆を隠さない。視聴者にとっては素人が古美術や骨董品などに手を出すものではないことを痛感させられるとともに、例えば数百万円で入手したものが、贋物で1万円の価値しかない場合、そうした売買が詐欺などに当たらないのかと思うが、番組ではそうしたことには一切触れていない。

去る7月8日、神奈川県警が日本画の前

田青邨の偽作を作って売った横浜市の大川容疑者を詐欺の疑いで逮捕した。これは予め偽作と分かっていたものを本物と偽って売ったことで詐欺になるのだろうが、なんでも鑑定団をみていると、偽作であっても偽作と知らない場合の売買は問題がないということなのかもしれない。

広報7月号

印刷 平成17年7月15日
発行 平成17年7月15日
(毎月1回20日発行 第38巻第7号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 神谷 博行
印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定価 500円